明治三十四年七月廿四日發行（明治二十年十一月本會創立）

第三種郵便物認可（明治廿六年四月四日）　每月一回十五日發行　内務省許可（明治廿一年二月廿八日）

婦人衛生雜誌

第百四拾號

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百四十號　目次



私立大日本婦人衛生會役員(參拾四名之內)

(明治卅四年六月十六日撮影)

評議員吉武輝枝子

幹事高木かつ子

評議員中濱芳子

仝 山本多穂子

仝 濱田捨子

評議員男爵夫人川口直子

幹事三浦敦子

仝 宮下咲子

會長侯爵夫人鍋島榮子

評議員子爵夫人松前藤子

總裁小松若宮妃周子殿下

仝 高橋孝子

幹事羽田三緒子

仝男爵夫人南部陸子

副會長濱尾作子

評議員丹波貞子

仝 徳富靜子

幹事鳩山春子

幹事岡田德子

幹事松平芳子

婦人衛生雜誌第百四十號 （明治三十四年七月十五日發行）

講演

ぐり〳〵のはなし （木曾講演）

醫學士 佐藤恒久君述
佃 速記事務所員速記

私は一つ此處に掲げてあります所のグリ〳〵の御話を致します、此グリ〳〵と申すのは皆さんも大概御承知でございませうと思ひますが、先づ主に頸の周圍に小さな玉か、或は豌豆位の大きさ、或は蠶豆又大きいのになりまするると鷄卵位の大きさの玉が幾つとなく頸の周圍に出來る病ひであります、それを先づ俗にグリ〳〵と申します、デ此玉が何から出來るかと申しまするると云ふと、皆樣方は解剖も大概は御承知でございませうと思ひまするが、淋巴腺と云ふものが人間の身體の中にあります、此淋巴腺と云ふものは何であるかと申しまするると、血液の中に含んで居ります水分則ち血漿の一部分は滋養分を持て組織内に這入り癈物を持て血液中に歸りますが其歸るに二道あつて一部分は直に血管内に這入り一部分は所謂淋巴管に一度這入て此内を流れ心臓の近所で血液に混じます、其淋巴管の途中々々に丁度鐵道のステーシヨン見たやうな風に淋巴腺と云ものがある、デ淋巴腺と云ふものはどう云ふ役に立かと云ふに、淋巴中に或る毒が這入りましてさうして淋巴管中を流れて行きまするると、途中のステーシヨンで其毒を引留めて仕舞ふ、ステーシヨンに來ると云ふと其處で以て先きにやらないやうにして仕舞ふ、詰り物を漉すやうなものである、淋巴の中に何か毒が這入ると淋巴腺がそれを漉して、糟だけ自分の所に留て、善い淋巴だけを先きに送つてやると云ふやうな譯で

丁度味噌漉で豆の潰れないのを漉すと云ふやうな工合である、それでありますから何か悪い毒が此淋巴の中に這入りますと、自然に淋巴腺にも毒が溜つて來る其處に留められますからして何うしても段々溜つて來る、溜つて來ると云ふと其淋巴腺が色々な變化を起しまするが、先づ吾々の目に一番著しく見えるのが大きくなると云ふこと、即ち淋巴腺が大きくなるのであります、それで此大きくなりました所の淋巴腺が今御話する所のグリ〳〵である、デ頸の周圍には淋巴腺が殊に多くあります、さうして今申あげました通りの譯で其淋巴腺の中に毒が留りますると淋巴腺が大きくなつてグリ〳〵になると云ふ譯である、それで昔は餘り此グリ〳〵を人が驚かないで居りました、隨分大きな玉が頸の周圍に澤山出來て居つても、別段痛いとか痒いとか云ふやうな故障のない間は醫者にもかゝらず平氣で居りました、けれども近年はさうでなくして小さな玉が出來まして、それを大變氣にして醫者の處に治療を頼むと云ふやうな傾きに大分なつて參りました、是はどう云ふ譯でありまするかと云ふに、其グリ〳〵からして所謂肺結核と云ふ、極く肺病の中でも性質の悪い病ひを惹起すと云ふことを皆樣が御承知になつたからである、それ故に此グリ〳〵を打捨つて置いて肺病になりはすまいかと云ふ御懸念があつて、昔はそれを打捨つて置いたのですが、此頃の方はナカ〳〵打捨つて置かないで、治療を直ぐに醫者の所に頼むと云ふやうな譯で、當節は此グリ〳〵に付て來人方の注意と云ふものが非常に餘計になつて來た、さう云ふ風に皆樣が詰り御自身方の身體を大切になさると云ふことは、皆此衛生と云ふものが詰り發達して參つて、婦人衛生會などの効能が餘程世間に知られて參つたのである、詰り婦人衛生會などの功績

である、併し又同じグリ〱の中にも醫者の目から見ますると、成程後にはソレが種になつて肺病になると云ふグリ〱もありますし、又左もなくして打捨つて置いても段々小さくなるグリ〱もありまするし、又假令小さくはならずとも少しも害をなさない所のグリ〱もあり同じやうな玉でございましても其中には種類が色々ある、それ故に今申上げまする通り、皆樣が其グリ〱を怖がつて醫者の所に治療を御頼みになると云ふとは至極御尤もである、御尤もではあるが餘りそれを怖がつて何ともないグリ〱を無理に取つて呉れとか何とか云ふのは又一ツ考へものである、デ此グリ〱の治療法に就きましては昔は先づ大概は藥で以て散らすと云ふことが主であつた、さう云ふ治療の仕方でありまするると、内科の醫者でも其グリ〱を癒すことが出來る理屈である、それ故に内科の醫者の所に行つて之を癒して貰ひたいと云ふ注文をすれば、醫者の方も亦其積りで以て先づ藥で小さくすると云ふことにして居つたのです、併ながら當節になりますと、アナタ方も唯だ小さくすると云ふ位ではナカ〱御承知にならない、それより早く癒して仕舞ひたいと云ふことが専一になりまして、早く癒すには藥で以て小さくするよりも、切つて取つて仕舞ふ方がどうしても早く癒る、それ故に昔は内科の醫者の方は此グリ〱の出來た人が澤山行つたけれども、今では内科の醫者の方は見向きもしないで、外科醫者の方へ來て之を切つて下さいと云ふのが當り前になつて來た。

一寸一つ御話を跡に返しますが、捨置ても害がない所のグリ〱を切つて取つて仕舞ひまするとどうなるか、切つて取ります日にはどうしても其處に疵が出來なければならない、害のないものゝために頸の周圍に疵を付ける、殊に御婦人方の首の周圍に疵が

わつては餘り面白くないからして、害のないのに切つて取ると云ふ必要は何處までもなからう、併し又それを捨置いては後日肺病になると云ふやうな惡い方のグリ〳〵であつたならば小さな疵位には勿論代へられませぬからしてソレを早く取るのは勿論宜しい、デ皆さんが衛生の爲めに、詰り御自身の身體のためにグリ〳〵を怖がつて御居でになると云ふこととは、何處までも吾々も同じ感じを持つて居る者でございます、然れども捨置いても害のないものを無理に疵を拵へてまでも取ると云ふのは少しく怖がり過ぎる方のものである。

デ今日御話するのはどう云ふグリ〳〵は捨置てゝ宜しい、又どう云ふグリ〳〵は早く取つて仕舞ふ方が宜いと云ふことを大凡御話する積りであります、併しながら例へば御自身にグリ〳〵が出來て、此グリ〳〵は此間佐藤の話に、何でも捨置ても宜さゝうな方の部類に屬しさうだからして是は打捨つて置いても宜からうと云ふやうに、アナタ方が直ぐにそれを御極めになると云ふと少し困る、私は只御參考までに概略を御話して置くのでありまして、決してアナタ方が此通りになさいと申すのではありませぬ、若しグリ〳〵が出來ました時には兎も角も醫者の處に御出でになると云ふことは何處までも必要である、デ其診斷に依つて或は取るなり或は取らぬなりと云ふことはソレは先きの御話である、唯アナタ方の御參考までに取らんでも宜いグリ〳〵もあるし、又取らなければならぬグリ〳〵もあると云ふことだけを今日御話する積りです。

デ此グリ〳〵と云ふものは殊に子供に多いものである、それ、故に今日皆さんのやうな年の若い方の居らるゝ場所で此事を御話するのも大變宜からうと思ひ、又貴婦人方も御居でゝありまして、お子さん方にグ

り〳〵が出來ました際には多少御參考にならうと云ふので、妙な演題でありますけれども今日御話する積りである、デ此グリ〳〵が子供に多いと云ふことは最う世間一般誰も信じて居ることであります、例へばラーゼルと云ふ人が小學校の生徒に就て檢査して見ました、其數は小學校の生徒千二百十六人の中で此グリ〳〵のない者がタッタ百三十七人であつたと云ふことである是は尤も歐羅巴の話でありますから多少の違ひがありませうとは思ひますが、先づ其位なものであるさうして見ますると云ふと、丁度此グリ〳〵の無い者が一割一分三厘にしか當らない、百人の中で詰り十一人三分と云ふ者だけがグリ〳〵がないのでアトの八十九人ばかりの者は皆グリ〳〵のある子供である、其位子供には多いものである、ソレから又年齡に付て恐しく御話申しますると云ふと、七ツから九ツ迄の子供が九十六プロセント即ち九割六分と云ふので、百人の中九十六人グリ〳〵があつて、僅か四人だけしかグリ〳〵がないと云ふことになつて居る、ソレから段々年を取るに從つて其數が減じて參りまして、十から十二までの子供で勘定をして見ますると、九十一、六プロセントと丁度九割一分六厘、ソレから十三から十五までの人でございますると云ふと八十四プロセント、段々割合が減つて行きます、十六から十八までになると六十九、七プロセント、ソレから十九から二十四までの人になりますと、六十八、三プロセントと云ふやうに、年を取るに從つて其割合が段々減つて行きます詰り是は子供に多い病氣であると云ふ證據であるのです。

デ、何故此グリ〳〵と云ふものが子供に多いか、此グリ〳〵の出來まする原因に付て一寸御話をして置くと御分りになりまするが、第一此グリ〳〵の原因と云ふものは主に何であるかと云ふに、頭顱抔の皮

腐或は粘膜に慢性の病氣がありましたときには此グリ〳〵を起すのである、ソレから又或傳染病で猩紅熱であるとか、實扶的里亞とか、痲疹であるとか云ふやうなものが矢張り此グリ〳〵を拵る基である、デ今御話申しました所の猩紅熱だとか痲疹だとか、或は實扶的里亞だとか云ふやうな病氣は兎角子供に多いもので、大人は殆ど罹らないと言つても宜い位の病氣である、デ子供には斯う云ふ病氣が多いのでありますからして、詰り今御話申した傳染病などが原因になつて子供に此グリ〳〵を餘計に拵へる理屈になつて來る、それから又小さい時分には此身躰の表面の皮膚に致せ、又粘膜に致せ大人に較べて見ますと皆弱い、チヨツとした事で以て疵が出來る、例へば風を引くなど〻云ふやうなことも子供には多くして大人には割合に少いのである、ソレから又頭などに腫物の出來ると云ふことも子供に多い、さう云ふことが皆な今のグリ〳〵の原因になるので、永く頭に、腫物が出來て居りますると云ふと、腫物の口から……詰り腫物の出來て居る所は一ツの疵になつて居るのですからして、其疵から惡い毒が這入つて來て、さうして淋巴管に行つて淋巴腺で以て留められると云ふやうな理屈になつて來る、デ今も栗本君の御話になつた通り此毒と云ふものは疵のない所からは這入らないものである、何處でも身躰に疵があると其處から這入るのであるからして今の腫物などの疵でも同じことで、腫物と云ふものも一ツの疵であるのですから、其疵から惡い毒が這入ると云ふと、今のやうに淋巴腺に持つて行つて其毒が喰付いてソレで淋巴腺が大きくなる、それから風を引いて咽喉を痛める、扁桃腺炎と云ふ病ひのあることも御存じでございませうか、昔は喉痺と云つて咽喉が腫れて御飯も何も食べられないやうに酷くなることも

あります、さう云ふ病ひになりますると云ふと矢張り咽喉の中に疵が出來る、其疵から毒が這入つて行つて、同じやうに淋巴腺に毒が附着して淋巴腺が大きくなる、さう云ふことが總て子供に出來易いのでありますからして、大人に較べると云ふとグリ〱と云ふものが子供に大變多いのである、それから段〱年を取るに從つて、今御話申す通り皮膚なり、粘膜なりの丈夫さが違つて來るのですから、チヨツト冷たい空氣に觸れても子供の時程には咽喉を痛めないやうになつて來る、從つて大人には此グリ〱と云ふものが少なくなつて來るのである、デありますからして大人には此グリ〱と云ふものは先づ餘り餘計にありませぬけれども、皆さん方位の御年であると云ふと……隨分此中にもグリ〱の出來て居る御方が澤山あるだらうと思ひます。

ソレでグリ〱に色々の種類のあると云ふことも先刻一寸御話して置きましたが、是は醫者の方から論じて區別しまするとナカ〱數が多いのであります、けれどもソレを皆御話する必要もありませぬから、其中の極く大切な點に就て二つだけ名前を御話致しますると云ふと、淋巴腺の單純肥大と云ふものがある、淋巴腺の單純肥大と申しまするは、淋巴腺が唯だ腫れて大きくなつた、一體小さくあるべきものが大きくなつた病氣である、ソレから今一つの方は淋巴腺の結核と云ふので此方は肺結核杯を起す方の側である、デ淋巴腺の結核と云ふのも無論淋巴腺が矢張り大きくなるのです、單純肥大の方も結核の方もドチらも淋巴腺が大きくなるのでありますけれども、チヨツと素人方には其看別けが付かない、單純肥大と云ふ方は前にも御話した通り打捨て置けば段々小さくなる、子供の中には隨分澤山ありましても年を取るに從つてそれが段々小さくなる、或は

塗藥杯をして居つてもそれが小さくなる、又小さくならずとも決してそれが、害をなして肺病を起すなど、云ふやうなことはないのであります、尤も單純肥大しました所の淋巴腺が後に至つて結核になると云ふことはあるんです、ソレが本になつて結核になる、極く健全なる淋巴腺が急に結核になると云ふことは少ないのでありまするが、最初先づ單純肥大と云ふものになつて、それから後又結核の毒に感じて、さうして其淋巴腺が後に結核になると云ふことが多いのである、デありまするからして最初の中は單純肥大でありましても後に至つて淋巴腺結核になると云ふことは無いとは申されないのです、からして詰る所一つグリ〳〵が出來ましたならば始終注意して居らなければならない、即ち今出來たグリ〳〵が一月二月經つてから小さくなるか大きくなるかと云ふことを始終見て居らなければならない、それが小さくなれは極めて安心なものである、大きくもならず小さくもならず同じやうであると云ふのは是は疑はしいのでありますからして、又一月なり二月なり經つて見てから極めるより外仕方がない、然るに一月前に見た時よりも今の方が大きくなつて居ると云ふやうな場合でありましたならば是は餘程考　ものである、或は結核になつて來たのかも知れませぬからして、其時にはそれだけの又手當をしなければならない、デ單純肥大の方は大概は段々小さくなるものでありまする、又小さくならずとも別段に大きくならぬグリ〳〵であるのです、所が淋巴腺結核の方はさうでなくして段々大きくなつて來て、初め堅かつたグリ〳〵が終ひには段々柔かになり、ソレが破れて膿が出ると云ふのが當り前であるんです、からして膿が出て來たと云ふやうなものになりますれば是は無論結核に違ひないのでありますからして、一も

二もない是はどうしても外科の治療を受けなければならないのであります、けれども又大きくもならない小さくもならない何時も同じやうであると云ふのは始終注意して居らなければならない、小さくなると云ふやうな傾きがあれば御安心なさつて宜し、又大きくなると云ふやうなものであれば驚いて直ぐ醫者の所に馳付けると云ふやうなことになされば、ソレデ肺結核の豫防が多少は出來るのです。

デ單純肥大と云ふものゝ原因に就き尚ほ御注意までに御話して置きますると、今御話を申した頭に腫物が出來るとか、喉痺を煩ふとか又は鼻加答兒と言つて鼻の粘膜に焮衝を起す……子供の中青い鼻液が出たり何かするのは往來杯で澤山見えます……其鼻加答兒を煩ふとか、斯う云ふものゝ外に最う一つ大事な單純肥大の原因があります、それは何であるかと申しますると虫齒であります、大概虫齒のある者は腮の骨の直ぐ下の方にグリ〳〵があります、御覧になると直ぐ解ります、ソレで虫齒と云ふものが直接原因になると云ふことは何處で分るかと云に、多くの人を檢査して見まするとよく分りますが、右の方に虫齒がありますと右側にグリ〳〵がある、左側に虫齒があれば矢張り左側にグリ〳〵がある、虫齒が澤山あれば從つてグリ〳〵も澤山あるし、虫齒が一つ位であるとグリ〳〵も少なくて濟むと云ふやうな風で、虫齒のある方にはグリ〳〵が大概あります、デ此虫齒から出來たグリ〳〵はどうであるかと云ふに、是は今御話申した通り單純肥大であるのですから、先づ最初の内は餘り驚くには及ばない、併しながら又ソレが本で淋巴腺結核になると云ふことがあるのですから餘程用心なさらなければ可けない、ソレで虫齒から來たグリ〳〵はどう云ふ風にしたら癒るかと言へば、虫齒を癒しさへすれば屹度癒る、

抜取つて仕舞はなければならぬやうな虫歯があるならば早速に抜いて御仕舞ひなさい、さうすればグリ〳〵が自然に小さくなつて何時の間にか無くなつて仕舞ふ、或は歯の中に何か詰めなければならぬやうな工合でありましたならば、早く護謨なり銀なり金なりを詰めて、さうして虫歯を癒して仕舞ふと自然に其グリ〳〵も無くなつて仕舞ふです、デ虫歯は御承知の通り矢張り歯が腐るのでありまして、歯の中に疵が出來る、さうすると其疵から今御話申した通り毒が這入つて淋巴腺の方まで行くのです、デ此虫歯がグリ〳〵の原因になると云ふことは餘り今迄人が申さなかつたのでありまするが、此頃出來た説でありまして、實際モウさう云ふことに違ひないやうに思ひます、多くの人に就て調べて見ました統計をチョッと御話しまするとグリ〳〵がありまして虫歯のない者は僅二割しかない、グリ〳〵のある人百人を寄せますると、其中二十人だけは虫歯がなくして八十人だけは虫歯があると云ふのですから此虫歯とグリ〳〵の關係が必ずあると云ふことは分つて居る、其八十人の中で四十一人だけは虫歯の外にグリ〳〵の原因となるべきものを見出さない、頭に腫物があつたとか或は咽喉を煩つたとか、又は猩紅熱を煩つたとか言ふやうな、前に御話申したやうなことはなかつたのです、即ち虫歯より外にグリ〳〵の原因と觀做すべき者がない、さうして見れば虫歯と云ふ者がモウ直接にグリ〳〵の原因であるだらうと思ひます、今申した如く百人の中で四十一人には虫歯の外にグリ〳〵の原因がない三十九人には虫歯と他の原因とを兼ねて居るから是に就てはグリ〳〵の原因が虫歯であるとは斷言されぬ、それから殘りの二十人には虫歯なき故原因は確に他の者である、斯樣に殆ど半數だけは此虫歯がグリ〳〵の原因に慥に

なつて居る、二度も三度も繰返すやうでありまするけれども、虫歯から出來た所のグリ／＼と云ふものは決して其當時に於ては恐るべきものではないので、一番宜いのは虫歯を拔いて仕舞ふのです、拔いて仕舞ひさへすればグリ／＼と云ふものは自然に無くなつて仕舞ひます、ソレでありまするけれども其虫歯から出來た所の單純肥大の淋巴腺か又結核にはならぬとは言へないのでありますから、先づ齒の療治は濟まして仕まひ、それから先は始終注意して今の淋巴腺が小さくなれば宜し小さくならなければ結核になりはせぬかと云ふので、折々自分でも氣を付け、又醫者の所にも行つて診斷をして貰ふと云ふことか無論必要である。

それから倘此單純肥大の摸樣、詰り容體を一つ御話しますると、餘り大きいのは此單純肥大の淋巴腺には出來ないのであります、一番大きい所で先づ蠶豆の大きさ位、或は食指の尖位の大きさのもの、ソレより大きくなると外の病氣になつて來た徴候であります、だから食指の尖位の大きさの間は心配なさらぬでも宜い、さうして能く觸つて見ると皮の下でグリ／＼動く、ソレでグリ／＼と云ふ名が出たのであります、ソレから或時は無くなつて見たり又出て見たりする、併しソレは無くなるのではない詰り何處かに匿れて仕舞ふのです、さう云ふ間は決して恐れるには足りない、ソレが最つと大きくなりまして、即ち今御話申した食指の尖などより、大きくて或は鷄卵位の大きさになつたり、又ソレ程大きくならぬでも胡桃とか梅干位の大きさにるなと餘程危險である、又それ位の大きさになりまするど、決して今御話した通り皮の下で以て動くと云ふことは無くなつて幾ら動かして見てもナカ／＼動かない、何處かに附着て居ると云ふやうな風になる、ソレはモウ結核

になつた徴候である、さう云ふのは無論早く取つて仕舞はなければならない。

ソレから淋巴腺結核と云ふものは何う云ふことにして出來るかと云ふことをチヨッと御話致ませうが、結核と云ふものも御承知の通り一つの黴、即ちバチルスである、結核バチルスがあると云ふことも御承知でございませうが詰りバチルスの仕業である、此バチルスが矢張り疵から、身體の中に這入り込んで行つて、さうして或部分の結核を作るのです、肺結核でも同じことです、何處ぞにか疵があつて、其疵からバチルスが這入り込んで行つてさうして肺に附着くのです、淋巴腺結核も其通りでありまして矢張り何處にか疵がありまして、其疵から即ち淋巴管の中へ這入つて、さうして淋巴腺で以て段々育てられて大きくなるのである、デありますからして小さな疵が頭なり顏なり或は口の中、鼻の中などに出來ますると、何時か此結核バチルスと云ふものが這入り込まぬと言へない、デ此結核はバチルスと云ふものはどう云ふ所に居るかと云ふと、無論結核を煩つて居る所の病人の身體の中には居りまする、肺結核でありまするど痰の中にも出て來ると云ふやうな譯で其バチルスが或は空氣中に混つて居りまするとと云ふと、吾々が斯うやつて呼吸をして居る間にも或は這入らぬとも限らないです、それで鼻或は口から呼吸の際に其バチルスが空氣と一緒に這入りまして、口なら口の中にチヨツト觸れて殘つて居る、さうして生憎口の中に疵があると、其這からバチルス先生這入り込んで行つて色々なことをすると云ふやうな譯になる、デ其疵も兎角口中或は鼻の中に多く出來易いものである、殊に風を引き易いやうな人でありますると其疵が出來易いのである、咽喉に焮衝があるとか、或は鼻に加答兒があるとか、又は扁桃腺炎と

云ふ今の喉頭の方であります、喉頭などを煩い易いと云ふやうな人は、別段に疵と申して擦窒つた疵とか、斬つたとか云ふやうな疵でなくして、總て粘膜が腫れまするると其上皮が擦剝け易い、皮が一重擦剝けると其下が詰り疵になる、さう云ふやうな擦剝けた疵から兎角毒が這入りたがるのであります、ソレで風を引いて鼻加答兒を起すとか、或は咽喉加答兒を起すとか云ふやうなものでありまするると、鼻なり或は咽喉なりに擦剝けた傷が出來まして、ソレからバチルスが這入ると云ふことは出來易い者である、兎角結核バチルスが身體の中に這入ると云ふのはさう云ふ疵から這入つて來るのが多いのであります、ソレで身體の中にさう云ふ疵からバチルスが這入りまするると、直ちに肺なら肺の方に行く時もありませうし、又さうでなくして淋巴管の中に這入つて、淋巴腺を通過して行くと云ふやうなこともある、さう云ふ場合に若し淋巴腺が健全でありましたならば、バチルスが一つ位這入つたからと言つて少しも懼ない直ぐに殺して仕舞ひますけれども、淋巴腺が少しく弱つて居りまする場合、例へば今の單純肥大して居るやうな場合は、是は無論一つの病氣でありますから決して淋巴腺が健全とは言へない、さう云ふ淋巴腺の中に結核バチルスが這入つて來まするると、バチルス先生益々得意になつて殖へてさうして淋巴腺結核を其處に造るのです。

それから結核の遺傳と云ふものがあります、御父さんなり御母さんなりが結核に罹つた、例へば肺結核なら肺結核に罹ると其子供に矢張り結核が出來る、即ち御父さんなり御母さんなりから子供に傳染ると云ふのが遺傳と云ふのであります、此遺傳に依つて出來る結核も勿論ある、ソレは今のやうに疵があつて其症から結核バチルスが這入ると云ふ著しいこ

とがなくして出來るのです、尤もバチルスが親から子に傳染ると云ふことでは決してないのでありまして、結核に罹つて居りまする所の親は兎角虛弱な子を儲けるのである、それ故に其虛弱の子と云ふのがモウ既に結核に罹り易い所の性質を持つて居つて、さうして後に成人するに從つて結核になるのである、からして直接に遺傳すると云ふのではなくして、唯た結核に罹り易い子供が出來ると云ふだけのことである、結核バチルスの這入りまする所の疵と云ふものは、遺傳の有る人でも無い人でもソレは同じことで、今申上げた通り疵が何處かに出來て其疵から這入るものである。

ソレから淋巴腺結核と云ふものはどう云ふ人に多いと云ふことを一つ御話しますと、先づ年齢に依つて無論違ひがあります、是は單純肥大の方とは大變な違がひて子供には少くして大人に多いのです、デ其數は十歲以下の子供では淋巴腺結核のあるものが九、五プロセント、百人の中で九人五分であります、單純肥大の方でありますると前に申した通り七年から九年までの者が九十六プロセントと云ふ位の大變な多い數であります、それから淋巴腺結核が十一から十二までの間即ち十代の人になりまするとそれは又ズッと殖へて來まして三十一、七プロセント、ソレから二十から三十までの人になりますると四十四、四プロセント、斯う云ふやうに年を取るに從つて段々多くなつて來ます、併し又三十から四十までになりますると、急に減つて來まして七、九プロセントしかない、此結核と云ふものは中年の極く人の壯んな頃、即ち二十から先づ三十位までの間が一番多い、是は前に御話申した所の單純肥大とは全く顛倒になつて居る、單純肥大の方は年が若い程多いのである、子供の中に多くして段々年を取るに從つて減

つて行くのでありますが、結核の方はさうでなくして小供には少なくて大人に多い、斯う云ふことでありまするからして、皆さん方のやうに御年の若い時分は今の結核の方には餘り心配なさらぬで宜い、二十代にでも御成りになれば餘程危險になるからして、其時には十分御心配下さるが宜いのですが、小さい時には淋巴腺結核に付ては餘り心配なさらずとも宜しい、ソレで此遺傳と云ふことは大變に必要なことでありまするからして、若し御父さんなり御母さんなりか肺結核に罹つて居ると云ふやうな場合には、其子供のグリ〳〵はどう云ふ風に治療したら宜いかと云ふことが又出て來る、デ第一に結核が遺傳されて其子供が弱い、弱いのに虫齒に罹つてグリ〳〵が出來た、さうすると其グリ〳〵に結核バチルスが喰付き易いとは分つて居る、元來其子供に遺傳がある、ソレから又御父さん、御母さんの側に始終居る、居れば何時の間にか空氣中に居る所のバチルスが口に這入つて、虫齒があれば虫齒の傷から毒が這入るのでありますから、今までは單純肥大のグリ〳〵であつたものが、何時の間にか大きくなつて結核になると云ふやうなことがあるのです、ソレ故に結核を受け易い人は、假令單純肥大であつてもソレヲ治療した方が得策である、デ家族の中に結核性の患者が居らぬ時には、其グリ〳〵は何時まで置いても一向差支がありませぬけれども、若し一家の中に肺結核の患者が居るとか何とか云ふやうな時には、假令單純肥大の淋巴腺でありましても成べく早く取つた方が宜い、結核になつてから取るよりは早く取つた方が勿論宜いのでありまするからして、結核になるのを待たずして早く取つて仕舞ふと云ふことが必要である、殊に御父さんなり、御母さんなりが肺結核であるとか、或は肺結核で死んだとか云ふやう

な者の子供は、モウ既に遺傳があるのでありまするからして、さう云ふものは矢張り單純肥大　淋巴腺でも遠慮なく取つて仕舞ふと云ふことが宜のです。

ソレデ此グリ〳〵の治療の方針と云ふものを今一度掻摘んで御話しまするると、單純肥大の淋巴腺と云ふものは子供に多い、ソレは餘り恐るゝに足らない、大概は小さくなる、或は小さくならずとも大きくはならない、大きくなると云ふのは何か他に病氣を惹起したので多分淋巴腺結核であらう、ソレ故に大きくなると云ふことが分つたならば成べく早く取つて仕舞ふ、ソレから淋巴腺單純肥大を有つて居る子供に結核の遺傳と云ふものが確かにあるならば、結核にならない中にはやくグリ〳〵を取つて仕舞ふ、又遺傳はなくとも結核に感じ易い境涯に居るならば、例へば遺傳と云ふものは少しもないけれども兄さんなら兄さんがどうかして肺病になつた、ソレで一緒に家に居ると云ふやうな場合で、即ち結核に感じ易い境涯に居るならば矢張り早く取つて仕舞つた方が宜い、決して結核になるのを待つて居てさうして取るには及ばない、先づソレだけが此グリ〳〵に就ての注意であります、皆さんがグリ〳〵を怖がると云ふことは勿論御自身の身體の爲めに必要ではありますが、併し餘り怖がり過ぎて、結核にも何にもならない、又結核の遺傳もなし、或は結核に感染し易い境涯に居るものでも何でもない人が、無理に之を取つてさうして疵を拵へると云ふことは餘り好ましいことでは勿論ないのです、併しながら取るべき時が來てそれを取らずに置くと云ふことは尚更ら惡いことであります、ソレで先づ斯う云ふ場合には結核になる、斯う云ふ場合には結核にならないと云ふ能く其區別を御存じであるならば、縱令醫者の所に御相談がなくとも、大概御自身ば御考が付くだらうと思

ひますからして、御參考までに概要を御話して置きますのですが、併し前にも申上げた通り日外佐藤が斯う云ふ話をしたから是は大丈夫である、取るには及ばないから取らずに打捨つて置くと云ふやうなことがあつては甚だ困る、私はホンの御參考までに御話をするのでありまして、矢張り病氣に御罹りになつたならば、一度は醫者の診斷を受けると云ふことが必要であるのです、先づ今日はコレだけにして置きます。

（完）



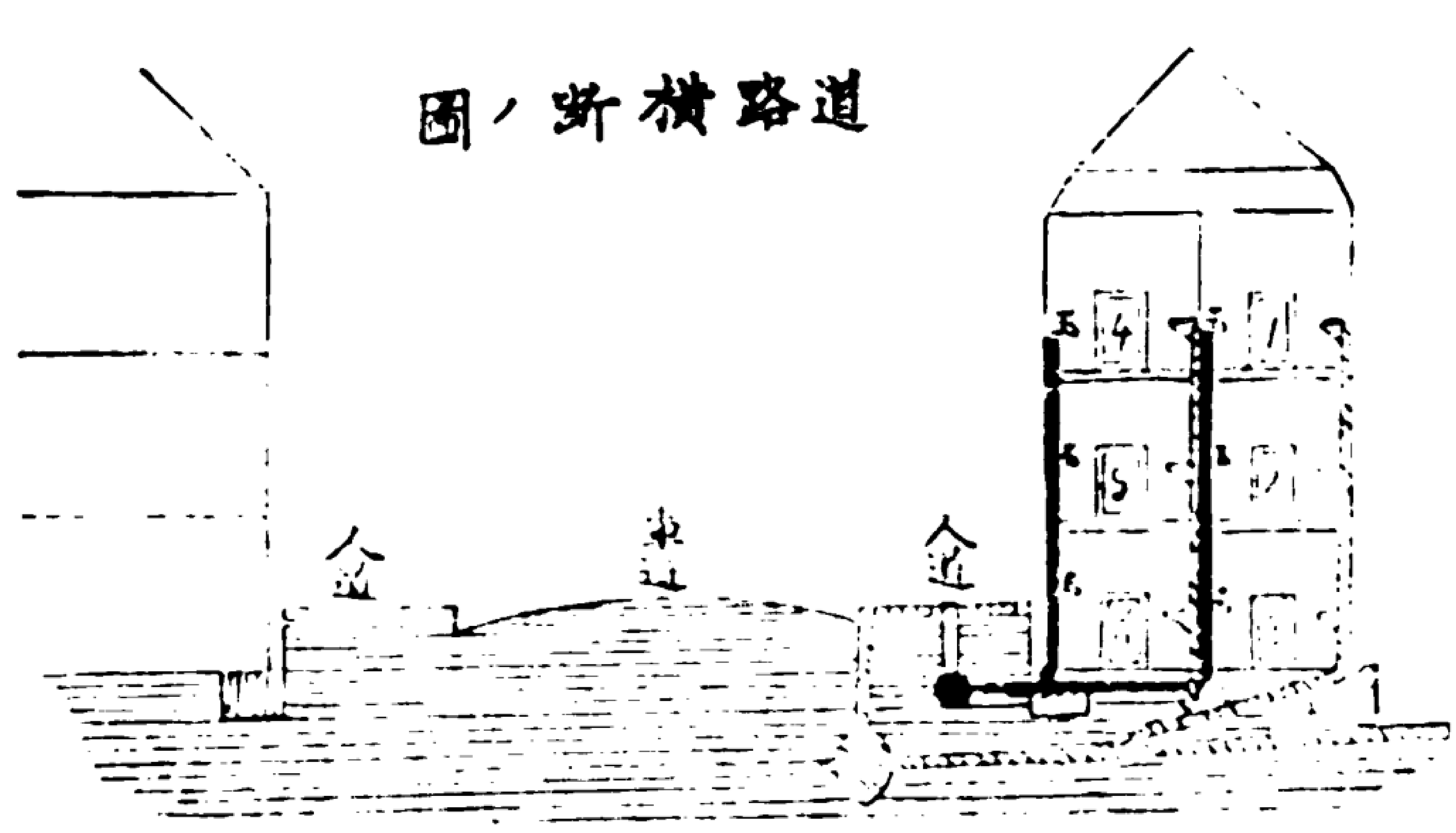
下水に就て（前號の續）（本會講演）

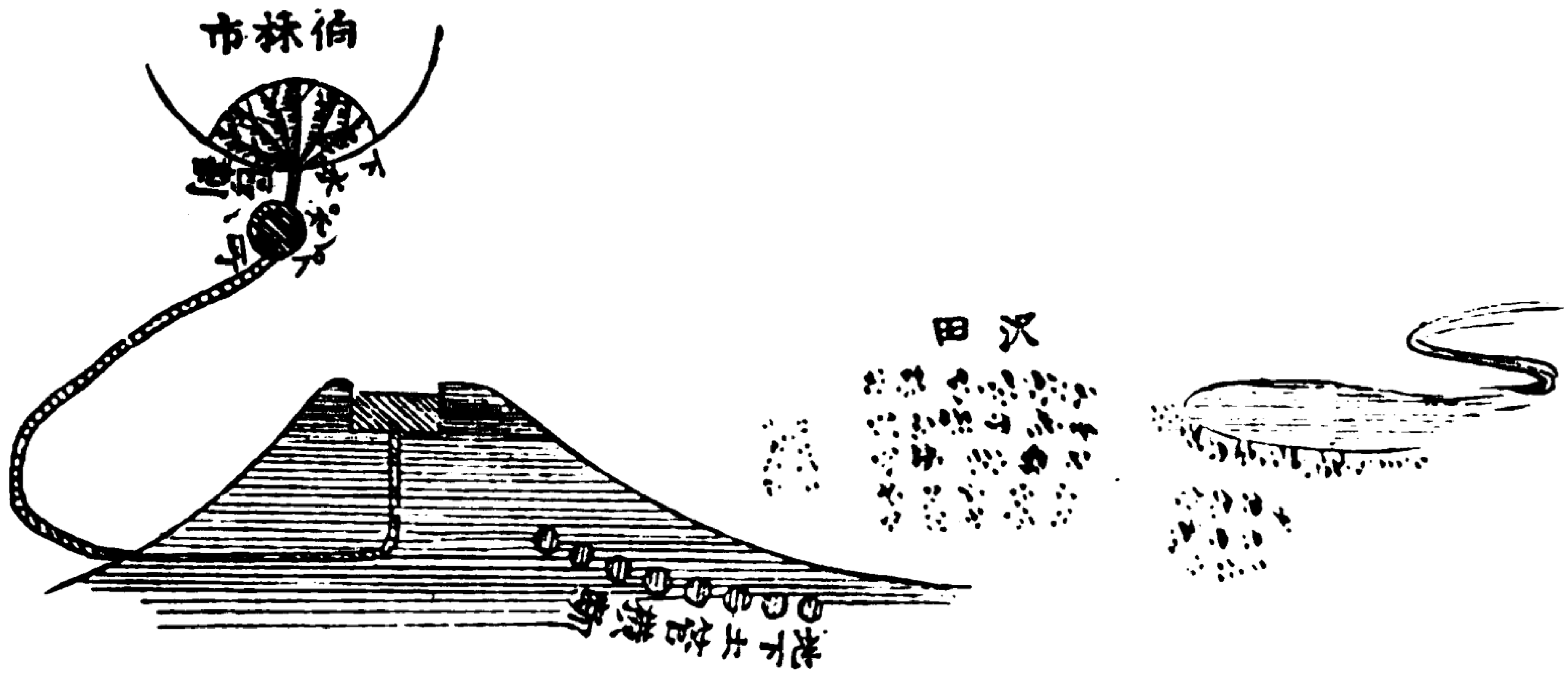
醫學士　山田鐵藏君述

扨て往來の下水管に流出たる汚水はドウ云ふ順序で沃田に參るかと申すと甚た粗畧な畧圖に依りて（黑板に記す）御話し申せば往來下水管が各受持ちの「ポンプ」所に參り「ポンプ」所にては晝夜絶えず汲出し壓力を加て沃田の方に送込むのです其沃田には小高き岡がありまして其絶頂に下水管が開口して居るのですそふして岡の上に汚水を一時一定量に溜め置く早く申せば汚水溜があるのです下水管が其溜めの内に口を開て居ります一定量の汚水が集りますると其の溜めの口を開きます口を開きまする沃田は斜めに成て居りますから汚水は下に流れ全沃田は汚水に濕たされる此の時々汚水に濕される沃田の土を以て色々の植木花物の肥料に致します夫故此沃田一坪何程と云ふ賃錢にて植木屋に貸付けますそふして幾分の下水の費用を補ふて居るのです、それから沃田の土中の事を御話致します沃田の凡四五尺下には無數土管を埋てあるのです沃田で汚水を濾して清水を

土管に集める仕掛です此土管に集まつた水は大土管に流れ大土管より一つの池に流れ込みます此池には魚を養て置きまして殘物で魚が大きくなるのです此魚も時々漁して何程にか價するのです扨て池の水は彌清潔となり夫れより伯林の上水なる「スプレー」の上流に流込むと云ふ順序になるのです
如此伯林府に於きまして下水法成就致してから傳染病の關係どうであるかと申しまするど其説明に都合の宜敷表がありますから夫れによりて御話し致ます此表は凡三十八年間の腸チフスの死亡者の數を表に致したのであります表にあります如く上水下水の出來ざる前には伯林府人口凡四十三万位と見て其内毎年腸チフスで死する者が四百人位ありました上水が出來てから段々と減じて參て千八百七十年頃には伯林府人口七十六万の内で五百七十餘の腸チフス死亡者を出しました餘程の減じ樣であります然し千八百七十二年御覽の如く大流行がありまして上水の出來ざる前年の數位に死亡の割合增して參りました是れが餘程面白き事實であるのであります即ち上水が出來たと申しても安心ならぬと云ふ證據で上水があつても「腸チフス」が流行するとがあると云ふとが分ります尚進て千八百七十五年即ち下水法が出來てからの表面を御覽なさい一年毎に腸チフスが減じて千八百九十年には伯林府の人口凡百五十五万の内で百十二人しか死亡しませんそふして流行と云ふとは絶てないのです如此下水法が出來てからと云ふものは以前に比すれば

道路横斷ノ圖

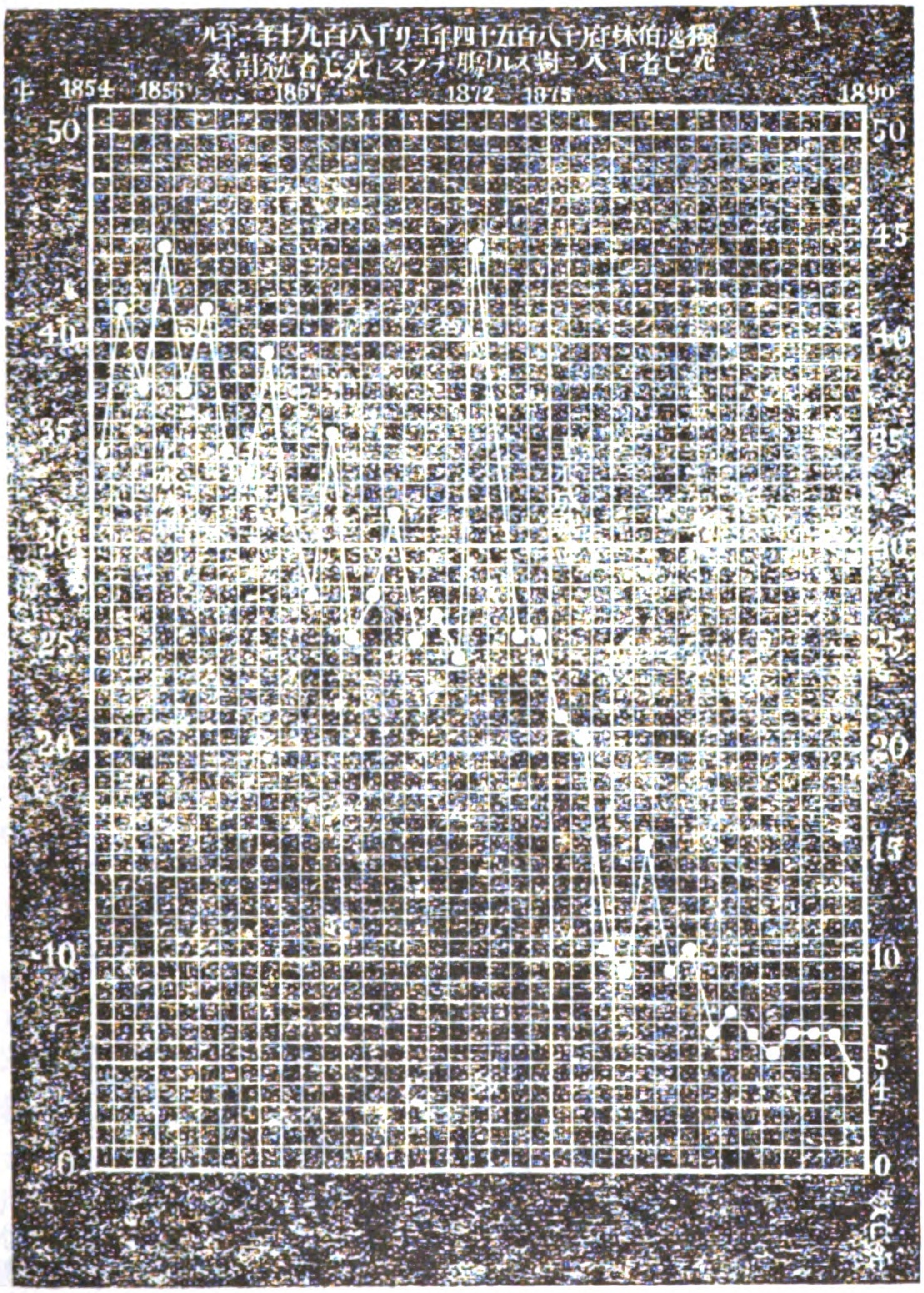




殆ど皆無になつたと云ても宜しかろうと思ます、先づこれで此下水法の

改良と云ふものは傳染病に著しき所の影響のあるものと云ふことは御解りになつたらうと思ひます、それで日本でも幸に此水道と云ふものが出來上つて來て居る、併し折角出來上るにしましても、此下水の今申上げた臺所の廻りからして往來の下水と云ふものを改良しなければ、人に依つては幾ど傳染病掃除と云ふとは無効であると云ふ位であります、併し先程も申上げました通り、往來の下水の改良と云ふものは先づ私等の生命のある間は出來ないと思ます、皆樣の御子さんが御生長なさる時分に出來上る位なものであります、故に近々傳染病皆無に致すと云ふ譯に行きますまい然らば何うしたら宜いかと云ふに、邸宅の下水だけでも清潔に致したならば、隨分に此傳染病の數を減ずることが出來るのである邸宅の清潔法は皆樣の御盡力次第に依つて易く出來得るとであろうと存じます、故に進で清潔法の箇條

を述べて御參考に致したいと思ます、第一に飲料水は改正の水道を用ゐると云ふことは勿論です、扨て臺所の位置と云ふことを選ばなければならぬ、宜く



光線の這入りまする所、即ち水などがこぼれても直ぐ乾くと云ふやうな所を選ばなければならぬ、それで流しと云ふものを必ずタヽキに致す、總て木材を用ゐてはなりませぬ、排水を致しまする管は鐵管或は土管で、土管の繼目に注意しなければならぬ、汚水の少しも漏れないやうにするのが最も必要です、それで屋敷内から往來まで持つて行くのです、併しながら若し往來の下水が十分完備して居らぬやうな所な

らば、寧ろ表に流さぬ方が宜い、若し邸内に餘地がありますれば、其處にセメントを以て固めたる穴を拵へて或は大きな瓶をいけまするとか云風にして、それに汚水を流込むのです、さうしてそれを運搬させる、それから臺所からして出た所の食物のやうなものは是も汚水と共に人を頼むで運ばせると云ふことになりますれば、自然一個人の傳染病菌の養成所が無くなつて來る、始終臺所の所でも玄關の所でも、何人に見られても差閊ないやうにすれば、此恐るべき所の傳染病も自然減ずることとであらうと思ひます、費用と云ふ點に就ても大した費用でない、先づ奥庭の前の植木屋の手を借いて掃て臺所の方に注意なさるやうに御主人を御說得になれば隨分出來ないことではない、六ケ敷い話ではないのであります、若し此法を勵行したならば、全く傳染病を絕やして仕舞ふと云ふことは出來ないけれども、三分の一位は絕やすことが出來るであらうと思ひます、近年に至りまして隨分高貴の御方でも傳染病に罹られたと云ふことがある、ソレ等は實に御自分の養成所から其病菌が浸入したのでありましよう、世間の流行に就ては餘り關係がない、御屋敷の位置、新水道もあり往來で立食もなさらぬ御方が傳染病に罹れた例は澤山あるが夫れ等は恐くは御自分の養成所から起つたものと見て宜しい、是等は衛生の何たることを御承知ない爲めと思へば御氣の毒であるけれども自業自得で致方はありません。

斯の如くに此必要なる所の淸潔法の監督は、御婦人方の擔任せられる所である、して見ると云ふと御婦人方は實に傳染病に就ては非常に重き責任を持つて御居でになるのでありますから、願はくは明日よりも此受持の衛生事業の監督に着手して、傳染病の幾分を減ずることが出來れば、是は全く皆さんの御盡

力が與つて力あることゝ思ひます。

寄書

肺病豫防養生法（第十六）

醫學士　竹中成憲君

體格は古今を通じて同じからざるが如し左に「醫談」（雜誌三二一年二月二八日）載する所の愚稿「英雄と體格」と題するものを轉載して之を示すべし

「熟ら案ずるに或は偶然の出來事なるやも難計と雖も古今の豪傑才子には軀幹大なるものと小なるものとあり中肉のものには稀なるが如し左に日本體育會事務所より發行したる文武叢誌附錄古來日本の大男の表を掲ぐ

七尺五寸	野見宿禰	（體重四十五貫）
七尺八寸	當麻蹶速	（同　四十八貫）
七尺五寸	紀　名虎	（同　四十二貫）
七尺餘	鎭西八郎爲朝	（同　三十八貫）
七尺五寸	山村伊豆守	（同　四十二貫）
七尺五寸	河津三郎祐泰	（同　四十二貫）
七尺二寸	朝比奈三郎義秀	
七尺五寸	武藏坊辨慶	
七　尺	岩見重太郎	
七尺一寸	小勝間太兒	
七尺八寸	大力學士	
八　尺	眞髮成村	
八尺三寸	明石志賀之助	（同　四十九貫）
七尺五寸	仁王仁太夫	（同　四十三貫五百目）
七尺三寸	雷電爲右衞門	（同　四十三貫）
七　尺	稻妻雷五郎	（同　四十二貫）
七尺三寸	鬼勝象之助	（同　四十七貫）
七　尺	黑岩勘太夫	（同　四十貫）
七尺餘	九國山新治	（同　三十八貫）
七　尺	雲井辨太夫	（同　三十六貫）
八　尺	釋迦ヶ嶽雲右衞門	（同　四十二貫）
七尺五寸	鬼ヶ島磯右衞門	（同　三十八貫）
七　尺	二所ヶ濵軍太夫	（同　三十八貫）
七尺六寸	九紋龍清太夫	（同　四十八貫）
七尺九寸	雷　梶太夫	（天正年中の）
八尺二寸	石槌槌右衞門	

七尺八寸　牛股武右衛門（同　三十八貫）
七尺餘　生月鯨太左衛門（同四十五貫年十九）

外國の大なるものを擧ぐれば「カーライル」、「シルレル」、「ショウペンハウエル」、「ペートル」大帝、「ワシントン」、「ビスマルク」、「ミラボー」等海の内外を問はず古の人の軀幹皆大なりしが如し近くは我國古墳より得る所の人骨及普通の甲冑を見ても之を知らる然り吾人は年々縮小しつゝあるなりちと信用し難き説なれども西洋の古人に就ては佛蘭西の古物學者「ヘンリオン」氏追究の結果左の如き表を公にせり皆身長を示す

「アダム」	百二十七尺	「イヴー」	百二十二尺
「ノア」	百〇六尺	「アブラハム」	二十八尺
「モーセス」	十三尺	「ハーキユルス」	六尺二寸
「アレキサンドル」	六尺二寸	「シーザー」	五尺五寸

我國現在及過去の内閣諸公を案ずるに軀幹大なるもの多し俗に親方とか頭とか呼ばるゝものも亦然り

概して大なるものに勝を制せらるゝの傾あり然れども小なるものに豈豪傑なしとせんや小なるものには「ミルトン」、「ゴールドスミス」、「ナポーレオン」、「ヘスチング」、「ネルソン」等あり我國の太閤秀吉、鬼小島彌太郎、義經の小身なりしは皆人の知る所也」云々

各國人身長比較表

「パタゴニヤ」人	一七三、〇	英國人	一六九、一
北米人	一七一、八	獨逸人	一六九、〇
蘇格蘭人	一七一、三	普國人	一六八、六
瑞典人	一七〇、三	瑞西人	一六八、六
愛蘭土人	一六九、五	佛國人	一六八、三
丁抹人	一六九、三	伊國人	一六七、八
和蘭人	一六九、二	西班人	一六六、七
洪牙利人	一六九、一	澳國人	一六六、二
日本人	一五八、〇乃至一五九、〇		

歐人邦人平均身長比較表

（但し發育停止の年限歐人は四十五歳まで日本人は三十五歳までなるを以て之を標準とす

歐人	男	一七二、〇〇
	女	一六〇、〇〇
日本人	男	一五九、〇〇
	女	一四七、〇〇

一、〇は我曲尺三尺三寸の百分の一なり



●齒と胃病との關係

贊成員　勝　善重郎君

吾人が日々生命を保持する所の食物は消化器の作用に依りて始めて全身の營養に適する者なり而して消化作用を分別すれば口中の消化、胃中の消化、及腸中の消化、膵中の消化となす此四部の消化相待て以て滋養物を取り全身の營養を維持す四者中其一を欠損せば營養は玆に不完全となるは疑なし故に營養不完全なれば何んぞ健康の人として其壽命を長く保つことを得んや

夫れ消化器は營養機の主權者にして消化管内に輸入せる諸多の食物を連綿たる理化學的の作用に由て血中に吸收し得らるべき一新なる物質に變ぜしむる一大官能を營む器關なり玆には消化器の一部分として口中の消化の大畧を述べん

口中消化は殆んど齒の咀嚼が尤も必要なる者となす即ち齒の食物を碎破するの作用とは先づ食物を咬み切り之れが咀嚼粉碎して唾液に混和して唾液の消化作用及食物の嚥下作用に依りて胃の腑中に下りし後ち胃の消化力をして食塊に働を及ぼさしむるにあり故に其作用たる大に全身の營養に關す若し齒をして充分なる咀嚼をなす能はざるときは嚥下したる食物は消化液の爲めに溶解し且つ吸收し難く不消化の粗塊となりて腸胃を害することあり故に如何なる滋養物も之を吸收、及類化せしむること能はざるを以て

營養は玆に衰へ従て他の諸機關の衰耗を招きて遂に全身の生活機能を缺損し直ちに疾病を醸すの不幸に遭遇せしむるに至る況してや吾國の如き平素生粗なる食物を用ゐると多き者に於ては消化器の一部として齒の效用一層大なる者と知るべし

予は亦齒牙の攝生の輕ろんずべからざるの切なるが爲めに倚ほ進て齒と胃病との關係に就て概略を説き且つ以て其效用の偉大なるとを述べんとす

予は本邦胃病患者の甚だ多きを聞くに是れ種々の關係よりして胃病を惹き起すものありと云へ共本邦人の如きは常に齒の不發生及疾病を粗忽に付する者の多きは之れ胃病患者の従て大多數なるとを想像して可なり然り彼の慢性胃カタールの原因として數ふべき者數多ありと云へ雖齒の機能不充分なるに起因するは學理上經驗上照々として火を見るより明かなり且又齲齒を有する者に於ては空洞内に食片落入して其食物の片々は暫時にして腐敗し種々の有害物を生し殊に黴菌をして繁殖し易からしむる所となり次て之を胃の腑の中に送り胃を害し胃の消化液を缺損す此の如くにして既に胃カタールを發せんか酸敗液を吐出して益々齒を殘害し玆に兩ながら相寄て以て病勢を助長するに至る而るに當今醫家の胃病患者に向て攝生を説くに當り齒の健否を診斷し之れが處置を告ぐる者甚だ少數なり從て患者も運動服藥等に注意するとあるも之が最大原因たる齒牙の治療を粗忽にする者多きは慨歎に堪へざる所なり齒の人身に於ける必要は夫れ斯の如く偉大なり随て之に對する養生法を過るべからざるの理由なり故に少時より食物咀嚼に注意し充分咀嚼の後にあらざれば嚥下せざると云ふとは常に必要なる者なり彼の獨逸に於ては目今咀嚼會なる者を設け以て咀嚼の習慣を養成せんとするに至れり歐州人の攝生に注意する夫

れ此の如く至れり盡せりと知るべし殊に本邦婦人の如きは運動及其他の攝生を怠り勝ちの者なれば最も咀嚼に注意ありたき者なり



●子宮內膜炎の話

在大學院　Dr.　T.　S.

此病は子宮病でも最も多い病で御座いまして、婦人科の病院などに來る患者の中でも、其大部分は此病の患者で御座います、

內膜と申しますのは、前にも申しました通り、子宮を組織する肉嚢の內側にある膜の病氣で御座いまして、之にも急性と慢性が御座います、

急性の內膜炎は、前に申しました、急性實質炎を起す樣な事柄は、皆な其原因となります、其外又色々の傳染病、假令ばチフス、痲疹、天然痘、などに罹て居る人にも起ります、

此病に罹れば、寒けがしたり、熱が出たり、下腹が痛みたり、放尿が近くなつたり致します、

治療は先づ靜にして寢て居るのが第一で御座います夫れから湯で絞つたタヲル(西洋手拭)を、腰の廻りに捲き其上より油紙を當て、腰を溫めるのが宜しう御座います、冬なれば湯タンポなどを入れて置くのも宜しう御座います、如斯して一兩日を經るも、快方に趣かないようで御座いましたらば、速に醫者に御かゝりになるのが宜しう御座います、

素人は內膜炎と申しますと、極く輕い病氣のように考へて居りますが、之は大なる誤りで御座います、世間で風邪は百病の基いと申しますが、內膜炎は總

ての子宮病の基いと申しましても宜しう御座いますは、一日も早く適當の專門醫に就て、治療を御受け位で、内膜炎が原で色々な子宮病を引き起しますから、決して其初期に治療を怠つてはいけません、

慢性の内膜炎は、急性内膜炎の治療を忽かにして置た爲めにも起り、産後や月經の時の不養生や、不攝生の房事や、他の子宮や卵巣の病の爲めにも起ります、

此病に罹りますと、下腹や腰部に痛みを感じ、月經は増加しこしけ烈しく、屡々血、膿などを交ゆる事があります、又神經は過敏となり、氣分進まず物事五月蠅くなるもので御座います、丁度此頃新聞に出て居る中將湯の廣告の繪は、多分此處等の有樣を現したもので御座いましようか、

慢性内膜炎は、慢性の病氣では御座いますが、餘病の起らぬ内に治療を加へますれば、必らず全治するもので御座いますから、これに罹つて御出での方々は、一日も早く適當の專門醫に就て、治療を御受けなさいませ、

●健康と病氣との話

何が幸福だと申しましても、身體の丈夫な程幸福な事は御座いません、身體を丈夫に致すには平生より衛生に注意して、若し萬一病氣に罹つた場合には、速に相當の手當を致して、健康に復する樣に致さなければなりません、夫には先づ健康とは如何なるもの、病氣とは如何なるものであると云ふ事を、よく承知して居る事が肝心で御座います、今茲に先づ健康と云ふは如何なるものであるかと云ふ事から述べますれば、健康な人は氣分がいつも靜かで爽かで理解力に富み、物事を爲さんとする勇氣があつて、善惡の區別がよく付き談話をするにも滯りなく聲が明瞭で、一定の仕事をした跡では必ず休みの必要を感じ、又外見上より云

へば歐洲人種なり、蒙古人種なり、或は又亞米利加人種なり、其の人種に相應の躰格や躰の形や皮膚の色を備へて居ります、又身躰の節々や齒並に缺損した處がなく、其年齡相應の力が有て、音聲を聽く事も、物を見る事も香氣を臭ぐ事も、物の味を感ずる事も十分確かで寒さ暖さの區別が出來て、物に觸れば必ず之を感じ、起つ事も出來れば歩行する事も出來、四肢を働かす事も休ます事も思ふ儘で、日々大凡そ六時間から八時間位は安すく／＼と眠る事も出來、身躰の目方は初生兒では大凡そ三千グラム、成年者では男子が大凡そ六萬グラム、女子が大凡そ五萬グラムで、丈夫な人の躰温は三十六度五分から三十七度五分位で、一分間に爲す呼吸の度數は大凡そ十六回、脉搏は一分間六十から八十位で、舌を見れは常に濕つて赤く、日々一定の食物を甘く喰べて、日々大凡そ一回は黃褐色な便通があつて、尿の量は一晝夜で大凡そ五升から八升位あつて、其の色は少しく黃色を帶ひて、透明で酸性で御座います、其の中には又砂糖も蛋白質も含んで居らず、其の比重は水よりは少しく重くて、水を一〇〇〇と致しますれば尿は一〇一五位の重さが御座います、

以上は丈夫な人の備へて居るへき條件をざつと申述べたので御座いますが、病氣になりますると之が色々と變化して參ります、勿論病人でも前に述べましたとが殘らず異る理では御座いません、病氣の種類に由りまして、或は感覺が變化したり、或は眠り樣が惡くなつたり、或は熱が出たり或は腹が下つたり、或は呼吸が困難に成つたり致す樣な色々な變化を來します、此等は皆な

病的の現象

で御坐いまして、委しく御話しすれば中々長くかゝりますから、今ざつと之をかい摘みて御話する事と

致します、兎に角次に述べます樣な症狀が現れましたらば、其人は最早や健康な人ではありません、即ち病人で御坐いますから、速に治療を加へて健康に復する方法を講じなければなりません、

先づざつと病的の現象を二つに分ちまして、身体が病氣に爲つた場合と、精神が病氣に爲つた場合とに分けて御話し致します、

身体が病氣に爲つた場合

にも色々御坐いまして、

(一)身体の形や大さの變化するのは、熱病に罹つた跡で身体の痩せるのや色々の病の爲に身体が水脹れになるのや、脱腸やできものや、或は膿や水が溜つた爲に、身体の一部分が脹れるのや、脊椎の病氣や骨の病氣て、身体が曲がつたり、足が曲がつたりするのや、或は兎脣などの樣に脣が裂けて居るもの丶類で御坐います、

(二)皮膚の變化するのは貧血の人や、永く病氣でおつた人の皮膚の青さめたのや、黄疸の人の皮膚の黄色になるのや、肺病の人や心臓病の人などの青いのや、丹毒の人や猩紅熱の人の赤い皮膚や、打傷の痕に青きしみの遺るのや、或は又色々の皮膚病の爲に皮膚に色々の出ものがするのや、或は汗や脂の出かたの増減するのや、創傷などは皆な此類に屬します、

(三)力の强弱は人々の職業に依り色々にて、力の弱い人が必ず病人と申す譯ではありませんが、概して腸胃の病氣ある人や、心臓や肺部に病氣のある人や、膿の出る病ひの人や、血を失ふた人や、睡眠の不足な人や、何にか中毒した人や、不攝生を過した人や、又熱のある人は殊に力が拔るもので御坐います、

(四)言語の變化するのは、喉の病氣で聲の枯れるのや、或は聲の全く出なくなるのや、或は啞や腦疾の一種で物の云ひ得ないのや、吃の人の吃るのなど

の類で御坐います、

（五）　睡眠の變化しますのは二タ通り御坐います、一つは安眠の出來ないので御坐いまして之は多くの病人殊に熱病患者では有勝の事で御坐います、之が昂じまして夜分殆ど眠れないのは、老人や、精神上非常に感動した時や、又精神病の人などに屢々見る處で御坐います、一つは睡眠が多きに過ぎるので御坐いまして、多くは腦や腎臟に病氣のある人や、頭部に重傷を受けた人や、又熱病患者に屢々見る處で御坐いまして、すや／＼と眠つた儘容易に醒ませぬ、

（未完）



皮膚病

皮膚病の話（前號續）

Dr.　×　×

●たむし（頑癬）

たむしと云ふは多い病で、記者が玆に殊更に說明せすとも讀者は旣に其の如何なるものなるやを知了せらるべし、

此のたむしは身体の何れの部分にも發生すれども、其の最も多く發生するは、陰部又は肛門の周圍、腋窩、乳房の下面などの如く、皮と皮とが相觸れて殊に汗脂などの容易に乾き難き部分なり、

たむしの原因は「トリヒ・フィートン、トンスランス」

と云ふ黴菌にて、此の黴菌が上述の部分に寄生して、遂に此の病を引き起すなり、此の病の初めは赤色の小さき隆起より成り、其の表面は少しく落屑を呈すれども、追々廣がりて丸くなり、其の周圍の部分にありては、隆起殊に甚しく追々と廣がりて、他にも亦同じ樣なるもの生じて相融合して、痒き事甚だ少なからず患者を苦しむるものなり、

此の病は前述の如く黴菌によりて生ずるものなれども、其の傳染力は甚だ薄弱なるが如し、世人稍もすれば夏期水泳場にて使用する、貸褌の爲めに傳染すと稱すれども果して然るや否や、

此の病は頗る頑固なるものにて、十分なる治療を施すにあらざれば決して全治することとなし而も病の甚だしく廣がらざるに先ちて、治療を施さば全治すること請合なり、

治療は色々の藥を用ゆれども、「クリサロビン」と稱する藥最も效あり、此藥は劇藥なれば、醫師より貰ひ受くべし、

なまづ(癜風)

なまづも亦「ミクロスポーロン、フルフール」と稱する黴菌の寄生する爲に發する病なれども、之はたむしの如く痒さの劇しきものに非ず、從つて患者には左程の苦痛を與へず、されど此病も亦頗る頑固なるものにて、一旦治癒するも再發するを常とす、

なまづは主もに壯年者に發し、殊に胸部頸部などに發し、又た稀れには、腕腿などにも發すれども、顏手などの部分には決して發生することなし、形狀大小は種々にて、色は黄褐色にして、其の表面は少しく落屑す、汗を多くかく人には此の疾殊に多しとす、

療法はヨヂム丁幾を一日二回づゝ兩三日間塗布するを可とす、其他ナフトール或はザルチル酸、或は昇

汞の如きも用いて効あり、但し此等は劇藥なれば、醫師より貰ひ受けらるゝを可とす、

此の病は前にも述べたる如く、至つて頑固なるものなれば、以上の藥品を用いて一旦治したる後も、暫くの間は、ザルチル酸石鹼の如きものにて局部を洗ふべし、左なくば直ちに再發するの患ひあり、



看護法

普通看護法（第十）

在大學院　Dr. T. S.

●膀胱の洗滌法

膀胱と申しますのは、御存の通り尿の溜ります嚢で御坐います、此嚢が病みますと、之を洗滌せなければならない場合が御坐いますから、一寸と御話して置きます、

さて膀胱を洗ひますのには、カテーテルと申します器械が入用で御坐います、此の器械は尖の曲りたる管で御坐いまして、金屬製のものと護謨で製したのと御坐います、勿論カテーテルには、男子用のと女子用のと二種ありまして、少々形が異なつて居ります、男子用は女子用に比べますと、太くて長う御坐います、カテーテルの外に入用な道具は、イルリガートルと便器と油紙とで御坐います、

イルリガートルの事は、前々號浣腸の話の處で申しましたから、玆には別に申しません、便器の事も本誌第三十三號（昨年十二月）で、大便の事を御話し申しました時に、述て置きましたから之も略します、尤も便器が手元に無き場合には、金盥を代用しても

宜しう御坐います、
さて右の品々が揃ひましたらば、先づ油紙を患者の臀部の下に擴げまして、水が溢れた時の用心を致して置きます、次に便器をあてがひまして、終りにカテーテルを、尿の出る口から膀胱の中に入れるので御坐います、併しカテーテルを入れます前に、是非忘れてはならない事が御坐います、夫は外では御坐いません、カテーテルは勿論の事、カテーテルを使用する人の手と、尿の出口とを清潔に致す事で御坐います、
カテーテルを清潔に致しますには、金屬製のカテーテルで御坐いますれば、使用前に五分斗り熱湯の中に入れて、煮るのが宜しう御坐います、或は使用前二十分斗り、二十倍の石炭酸水の中に浸けて置ても宜しう御坐います、護謨製のカテーテルなれば、三十分位二十倍の石炭酸水か、或は千倍の昇汞水の中に、浸けて置けば宜しう御坐います、尤も石炭酸なり、昇汞水なりに浸けたカテーテルは、使用前に必す湯さましの水で、よく洗はなければいけません、
手を清潔に致しますには、先づ爪を切り爪垢を落した後ち、石鹸にてよく洗ふので御坐います、尤も一旦手を洗ひましても、何にか不潔なものに觸れましたれば、再び洗ひ直した後でなければ、カテーテルを持ちてはなりません、
尿の出口は、清潔なガーゼ木綿、或は脱脂綿に、湯ざましの水を浸けて、拭へば宜しう御坐います、
さて愈々カテーテルを入れます前には、清潔な布片で拭ひまして後ち、其先端にヲレーフ油、或はグリスリンの少量を付けまして、靜かに尿の出口から入れるので御坐います、
カテーテルの入れ方は、筆の上では中々理解し難う御坐いますから、是非とも一旦醫者から實地に就て、

教へて御貰ひにならなければいけません、カテーテルが膀胱に這入りましたらば、イルリガートルの中に、攝氏三十五度位の、洗滌劑を注ぎまして、左の手でイルリガートルの護謨管の先を押へながら、之をカテーテルの根元に嵌めまして、靜にイルリガートルを上げますと、洗滌劑が徐々に膀胱の中に流れ込みます、

洗滌劑が充分這入りますと、患者が放尿したくなりますから、之を度として護謨管をカテーテルから離しますと、一旦這入つた洗滌劑がカテーテルから流れ出ます、之を便器なり金盥なりで、受けるので御坐います、

這入つた洗滌劑が殘らず出ましたらば、再び護謨管をカテーテルに嵌めまして、注ぎ込むので御坐います、如斯幾回も洗滌劑を出したり入れたりして居りますと、初めの内は出て來る洗滌劑が濁つて居りますが、後ちには清き儘で出てまいります、之を度としてカテーテルを取り出すので御坐います、

一旦用ひましたカテーテルは、充分水で洗つて清潔に致さなければなりません、金屬製のカテーテルで御坐いますれば、使用後四十五度位なアルコールの中に漬けて置きまして、次に用ゐる時は之を湯ざまして、よく洗つて用ゐれば宜しう御坐います、

膀胱を洗滌致しまする度數、及び洗滌劑の種類は、病氣に依り色々に致さなければなりませんから、其都度醫者に御問合せになるのが宜しう御坐います、

●胃の洗滌法

胃病の種類に由りては、胃を洗滌しなければならない場合が御坐います、胃の洗滌法は膀胱の洗滌法と同じ樣で御坐いますが、之にはカテーテルの代りにネラトン消食子と云ふのを用ゐます、之は護謨で出來た太い長い管で御坐いまして、之を喉から胃の中

に入れまして、次にヂラトン消食子の根元に大るなる硝子漏斗を箝めまして、之を患者の口よりも低くして置きまして、其中に重曹水を八分目位注ぎ込みましてから、静に漏斗を高めますと重曹水は徐々に胃の中に流れ込みます、次に漏斗を下げて下た向きに爲し、金盥で受けながら注ぎ込んだ重曹水を吐き出させるので御坐います、如斯再三出したり入れたりして胃を洗滌するので御坐います、入れます洗滌劑の分量及び洗ひます度數は、其都度醫者に御問合せなさりませ。



食物調理法

内外實用料理法（第十）

横井たま子

○琉球料理肉菜飯

鷄の肉を大きくそぎ取り、骨附の肉は骨のまゝぶつ〱小さく切り、大切の肉と共に鍋に水を多く入れ、二三時間も能く煮てスープを作りその肉と骨附を取り出し骨附の分は生姜を刻み込み醬油と味りん、砂糖にて煮つけ鉢に盛り一つの肴となし、大切の肉は細くさき、又玉子を三つ四つ鹽と、砂糖にて淡味をつけてうすく焼き細く刻み適宜の大皿に盛り、又紫蘇、蓼、柚子の皮抔草々別々に細かに刻み同じ皿に盛りわけ、スープはそばの汁よりも少し淡く味つけ

（醬油と味りん）清汁よりもからくして、水さしの如き器具に入れて各々食卓に出し茶わんに飯を盛り右の品々を載せその上より汁をかけ交ながら食すべし

○魚菜琉球汁

生鰹節大切一ッ切を細かに切り、野菜は、胡蘿蔔を花形にうすく切りさゝや隠元を細く刻み鍋に八合位の水を沸立たせその中に入れて野菜の柔かくなるまで煮て醬油と砂糖にて常の清汁よりも甘辛く味つけて鍋を火よりおろし置き白胡麻を一合程煎り摺鉢にてよく〱摺り鍋の汁を少しづゝ入れて胡麻をとかし大鉢に入れ鍋に殘りたる身をも鉢の胡麻汁の中に入れ、大匙を添へ香味には紫蘇の葉、茗荷、なぞ細かに刻み皿に盛りて共に卓に出し温き麥飯に右の汁と身を程よく懸け香味を添へて食すべし之は、來客二三人多く加はりても差支もなく輕便にして滋養もあり、夏向きは、汁の冷たる方却て味ひよろし

○からみ飯

豆腐を一寸五分四方、あつさは三四分位に切（或は四角にそぎてもよし）ざつと湯でゝ鍋に置き（湯の中にソーダを少し入るべし豆腐のかたくならざるためなり）香味は七色唐がらし、山葵、生姜、芥子、又粉山椒、抔をよしとす、食する時先最初茶わんの中に、湯でたる豆腐を入れ、七色唐がらしを一つまみ入れ其上に温き飯を盛り鰹だしの沸立たる汁をかけ蓋をなして食卓に出す交ながら食すれば、ぷんと、からみの香氣發するなり次のおかわりにも又同じものかと持受らるゝに此度は、山葵、第三、第四と香料を取りかへてかわり〱に出せば、興味あるものなり、なるべくは茶わんも小にして飯を多く盛らぬ樣にして數杯を食するをよしとす、雨ふりつゞき、魚類とぼしき頃のおもひ付料理には之もまた面白からん、

○仝じく鉢肴

○九孔螺もどきの南瓜もみ

青き南瓜を菊座に切り中子を取り皮をむき水にて洗ひ薄く瓜もみの如くに刻み、擂鉢に入れ鹽にて揉み水にてざつと洗ひよくしぼりて鉢に入れ紫蘇の葉を刻み交ぜて三杯酢を懸けて暫時して食すれば南瓜嫌ひの殿方にても全く九孔螺かと疑ふほどの妙味あり

○茄子の皮の甲燒

皮をむかずに二つ切にし切口に粗らく横たてに庖丁を入れ鍋に胡麻の油を引きて煎り燒にし生姜醤油をかけて食す

他の仕方は、皮をむき輪切りにして暫時水に浸しあくを出しざるに上げて水を切り、鍋に胡麻の油を充分たらし沸立ちたる頃前の茄子を入れてちり〳〵煎煮にし度々かき廻し鍋の蓋をして蒸せば柔らかになるなり、之を碗に盛り前と同じく小皿に生姜醤油を添へて出し之を附けて食す多人數には此仕方尤も輕便なり

○桃の砂糖煮

餘り熟さゞる桃の實の皮をむき種子を去り四つ切りにして之を同量の水にて凡そ十分間斗り煮たるところ桃十個に付き荒目砂糖五十目を入れて尚徐に煮込み桃の溶け始ぬ中に火より下し其の温氣のある中鑵詰になすべし、但し一週間前後なれば鑵詰にせざるも之を貯へ置くことを得べし

○又當座食後の菓子

前と同じ仕方に桃の皮をむき種子を去り二つ割にして水は同量よりも少し多く入れ、十分斗り煮たる頃(始に水にて煮れは桃の香氣うせざるゆえなり)後ざら目砂糖若しくは白砂糖適宜の甘さに(之は餘り甘からぬをよしとす入れて徐かに煮て桃の柔かになり形の溶けぬうちに火より下し鉢に入れ置き食後小皿

に汁多く桃二つ入れ匙を付けて出すべし夏菓子には至極妙なり

但し李桃、はだんきやう杯同じ仕方にていづれも美味なり

○第一薤晶子の白漬

○薤晶子一升に付鹽一合

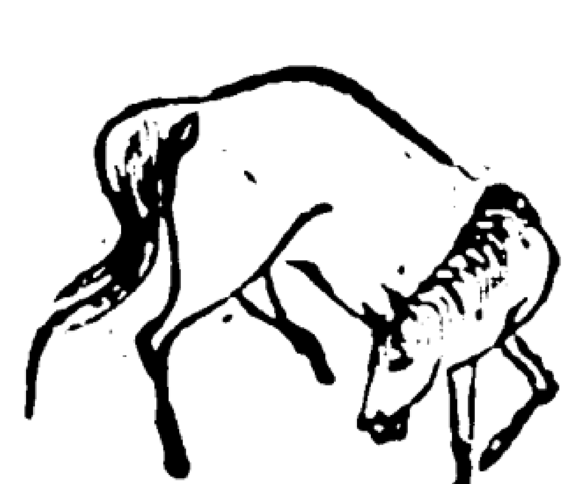
○水は薤晶子を壺に入れて充分其上にかぶさる位をよしとす故に見斗にてよろし

初め薤晶子の後先を少し切り落し上皮をむき水にてよく洗ひ水をしため壺の中に入れ、前に見斗たる水と鹽を鍋に入れ沸立て、其沸立ちたる鹽湯を薤晶子の入れたる壺の中へ注し入れるなり、さすれば薤晶子の臭味は抜けるなり、暫時置き冷たる時蓋をして目張をし六七ケ月過ぎて食すべし此味ひ通常の漬方と異なり上品なり之を白漬けと云ふ

○第二薤晶子の赤漬

今一つの仕方は醤油の明桶（當時明けたる桶に限る）の口より前の如く洗ひたる薤晶子を一ぱい詰込、而して大桶なれば更らに醤油を一升斗りのみ口よりつき注し、而してかたく目張をして常に庭口の土間にて邪魔になる所へ横たへ置き掃除する毎にごろ〳〵うごかすをよしとす（桶の中にて薤晶子に醤油のまみれる爲なり）之も六七ケ月若しくは一ケ年後のに、のみ口を明けて食すべし、第一の白漬に少しおとるといへども又好みに依りて賞翫せらる

但し半桶なれば醤油は五合位にてよろしいづれも酢を用ずして自然に酢氣をふくみて風味よろし



正誤　前號第百卅九號第三十七頁上段竹中氏肺病豫防法中「ブリシル」とせしは「ブロミル」の誤り

衛生海

●肺病は尤も難治の病症なることは既に人の知るところなるが今同病の人が喀痰を無遠慮にかしこ此處に吐き出すときは其乾きたるとき塵埃となりて人の吸收するに至り虛弱なる人にありては遂には傳染するに至る●尚同病者の高聲にて談話をなし其飛散せる唾液等も又危險少からず●結核患者の室には滑かなる木床を以てし毛布等を用ゆべからず又箒を以て掃除せずして屢々濕ひたる布にて拭ふをよしとす●結核患者との談話するときは「ハンカチーフ」にて口鼻を被ふようになすべし●强壯なる人はたとへ偶然病毒を有する空氣を吸へばとて又結核牛乳を飲みたりとて直ちにうつるものにあらず丈夫な人の鼻しる、血液、胃液は疑いもなく病毒に打ち勝つものなれば餘り恐怖するもよろしからず只出來得る丈の豫防は爲すべきなり●婦人の洋服餘り長きに過ぎ往來を掃除してあるくが如きは尤も危險なり●結核の遺傳的素因のある結核病者は治癒せざるといへる傳說は誤れり其父母の肺病なりし男女にして治癒したるもの其幾百なるを知らず落膽すべからざるなり●平素食物の良否は疾病に大なる關係を有す肉食は尤も必要なりされども之に伴ふて野菜を用ゐざれば便秘を來す●追々暑中休暇も近きたれば轉地せらるゝ方も多からんが空氣の清潔なるは海岸に限る貧血の人皮膚弱き人レオマチスの人腺病質等には海水浴大によろし生殖器肺病心臟、血管に病ある人には海岸散歩の方をよしとす●土地の撰び方は成るべく注意して交通の便飲用水の善惡食物供給の如何土地の高

俗適當なる醫者の有無旅舍の模樣等に充分注意せらるべし●下の話は叢談中へ加へる筈なりしが出し遲れとなりし故此欄に出すことゝなしぬソレは「マラリヤ熱と蚊との關係なり●「マラリヤ熱とは俗に「オコリ」即ち間歇熱とて大低の人が能く知つて居る病ひにて一日に一回或は一日置きに一回或は二日每三日每に一遍と云ふ樣に時を定めて惡寒を來しソレより高熱となり汗の出づる順序にて冷へる時には着物を何枚重ぬるも防ぐことはできぬ●コレハ風土病にて土地により起る病ひにて同じ東京の內にても本所深川邊に多し日本の內でも美濃尾張或は江州彥根邊には澤山ありて彥根の中學校長の話によれば敎授中に突然生徒の顫え出すことあり「今日は私が「オコリ」をふるふ日だなどゝ平氣で居る樣な次第で何熱帶地方ですと琉球の八重山群島、台灣等は此病頗る激しく是れが爲め人の虛弱なるもの多し●原因此病氣は一躰濕氣のある地面或は空氣の惡しき所に病毒ありて其原因も不明亮なりしが近頃此病ひは一種の動物の起すものなることを知れり「オコリ」の種類によりて一日一回若くは二日三日に一回起るの違ひあり●此動物は患者の血の中にある處の赤血球の中に寄生し居るものにて非常に小さき動物にて顯微鏡の力を藉らざれば迚も見えません●ソコで「オコリ」のふるひ初めは此動物が血球を割りはじめるに起り新たに赤血球に這入ると汗が出づるので是は一經過每に一度づゝ熱を出して顫つて汗をかくと云ふことになる一日一回「オコリ」をふるふのは二十四時間內に此經過を一巡するのです●マラリヤ病毒は一種の寄生動物だと云ふことは中々込み入つた問題になりますが其殖える工合がどうしても動物の類でありますから寄生動物と云ふのでありますソレで此病ひがドウして人に傳染するかと云ふに是れ即ち蚊と「マ

ラリヤ病との關係であります！●蚊が此病ひをわずらつて居る患者の血を吸ひますと蚊の胃の腑の中で此動物が發達をはじめて遂には何万何千と云ふ數になりまして蚊の口の唾の腺から人を螫しますときに人の血液に流れ込みて傳染するのであり升から蚊は實におそろしいものになつて來る●サテ此蚊が病毒を傳播するといふことを考へましたのは近頃のことで十四五年前からポツ／＼其說があつたのですが盛になりましたのは一昨年若しくは去年あたりからです●ソレですから「オコリ」の多い地方に於ても蚊にさへ吸はれなければ病毒を受ける氣遣ひはありません去年の夏英吉利の風土病を研究する人が歐羅巴で「マラリヤ病」に有名な羅馬の近所に往きまして一種の家をこしらへまして其家の中に日の入り一時間前から其中に這入り夜中は決して其中から出ません朝は又日の出後一時間までは外に出ないと云ふ規則を守りまして此「マラリヤ」病の非常に多い所に何ケ月か住んで居りました其地方に於ては此病氣に罹らぬ人は殆んどないと言ひ傳のある所に行まして試驗しました處が三人が三人共一人も病氣に罹らずして蚊に吸はれない爲めに健康を保つて居りました●ソレから其次の試驗は「マラリヤ」病に罹つて居ります所の患者の血を吸ひました蚊を倫敦に持つて來ました處が私に吸はせて下さいと云ふものがあつて自分が承知の上犧牲となりまして試驗をした處が少したちますと忽ち「マラリヤ」病に罹りましたソレから此事が益々確かになりまして各國でも盛んに研究をはじめまして去年あたりはモウ十分と云ふ程の試驗が出來まして「蚊と云ふものは「マラリヤ病」を傳播するものだといふことを證據立てることになりました」●サテこふなると蚊の研究は大變必要でありますドの蚊も病毒を傳へるか否かを知らなければ

なりませんドノかも皆病毒を傳播するといふものではありませんそうでないと蚊にくわれた人は皆「マラリヤ」になるわけです蚊にもいろ〳〵種類があります、ふだん此邊に飛んで居るのは「シユーレンス」といふ名前でありますが病毒を傳へますのは「アノフエリス」と申す蚊で此雌が人を螫すので雄は家の中に這入ッて來ない位のものですソレでありますから此「アノフエリス」といふ蚊の雌を早く知ることが尤も必要であります●其蚊を見分けることは實に困難なことでありますが幸ひにしてソレが分り易いのであります平らかなる處にとまつて居る時は毒のない種類の蚊は身躰が休んで居る所の平面に身躰を並行さして居る●病毒を傳へる方の蚊はとまる時に頭を下にしてお尻を高く上に上げてやすんで居る平面とは角度をなし足をあげて居りますから留つて居る所を見ると直ぐに分る是等は先づ分り安い事實であります●彼の「ぼうふり」は蚊の子でありますが毒のある方は「ぼうふり」の内から遊ひます病毒を傳播しない方は斜めに泳いで尻で呼吸するので、病毒を傳播する方のは身躰が水の平面と並行にて居ります其他いろ〳〵の點に於て毒のある種類とない種類に知ることが出來ます●又此蚊の生活の工合が違ひますして病毒を傳播する方は日の入りから夜だけ出て人を吸ふソッして此蚊は地面から餘り高くは飛びませんから二階に寢れば病毒を避けることが出來ます●斯う云ふ理窟が分れば大に此「オコリ病」の豫防をすることが出來ましやう第一溝などの水はけをよくして蚊の發生を妨がねばなりません。

蚊の發生豫防法

蚊の發生を豫防するには前に述べし如く水はけをよくするのが緊心でありますが一寸と二三日盥に水を汲んで置いても直ぐ「ぼうふり」が湧くから之を防ぐ

ことは出來ませんが此水溜りに石油を注ぐと石油のために蚊が死ぬそれは空氣を呼吸することが出來ないからであります孑孑が水の平面に來て呼吸をしやうと思ふとドッコイ油で一種の膜が出來て居りますから空氣を呼吸すべき穴を塞さがれるので蚊の「ぼうふり」も死んで仕舞ひ升から例へば彥根の如き美濃尾張地方の如き琉球八重山群島臺灣などにいつてもマラリヤ病に罹らずにすむようになり誠に安心に行くことが出來るやうになり升かゝる地方に於て子供の衞生とか一家族の衞生とか云ふものは御婦人方がして下さらなければ餘程難かしいのでありますから之をなさるには其理窟を知つて居らないとなさる理由が分りませんからドウか理由が御分りになりましたならば御實行なさる樣に致したいものであります、

御實行！　御實行！

私の切に皆樣に御勸め致しますのは實行の事ですイクラ有益なことを御聞きになりましても御實行になりませんければなにもなりません兎角面倒と云ふことは御止めになつて日進月步の世の中でありますからよいと云ふことは御實行御硏究なさる樣に致したいものです御實行になりましたならばドーカ其結果の御報告を伺ひたいものです記者は會員以外ののにいろ／＼注意を與へてやつたことがありますが疥癬の人に下山博士の「ナフトール」流動石鹼を塗りて好結果なりしことと火傷に亞麻仁油を塗ること「ニキビ」の出來る人は脂の分泌が多すぎるとか脂腺の口に埃がつきて其出口が塞がりしが爲に焮衝を起し若き人には兎角出來易い者でありますから顏の脂を去る爲に加里石鹼にてしば／＼顏を御洗ひなさいそうすれば顏のあれるとなしに癒ること及び總ての皮膚病たとへば俗に「ハタケ」の如きものの等にも此石鹼を

用ゐ外のしやぼんは成るたけ使はない方がよいことと又頭にふけが溜まつてそれが爲め頭瘡の出來たる時にも此加里石鹸を用ゐるがよいと話してやりましたが皆好結果なりとて喜びの報告がございました會員方は如何で御坐いましたり？因に記す加里石鹸と云ふのは恰も飴の樣な色で藥屋へ參ひると曲物に入れてよこします臭ひは余りよくありませんが皮膚の爲めには大變よろしい洗ひました跡がスベ〱します價ひ五錢も買へば可なりあり升顔のあれている人などは其あとで「ベルツ水」を塗れば尚よろしい「ベルツ水」の効能も大いしたものです（ベルツ水處法　苛性加里一、〇アルコール、グリスリン各四〇、〇水一二〇、〇ベルガモット油數滴）是れは醫者の印を御貰ひになつて御買ひなさい）其他「ワキガ」には水楊酸精をぬること等は皆本誌に記載したる一二の事柄でありますが此外によく御玩味あれば御實行になるべきことは紙面にあふれ居りますからドウか御一讀に止めずして御實行の上其成績を御報導わらんことを希望致します、

中外彙報

●細菌と塵埃

夏になつて市街に水を撒くことは塵埃の飛び散りて人の健康を害することを防ぐ主なる目的なるべけれども其塵埃ぞ水を撒きたるが爲めに細菌を減少せしむへきか或は寧ろ水を撒くことなしに之を放棄して日光にさらし自然の消毒法によりて滅殺せしむるの優れるかに就ては此頃英國の「マツスチ」氏と稱する人の實驗せし處にして其結果は撒水せる塵埃中に含める細菌の數は乾燥せる塵埃中に含むものより多しとて十數日の試驗によりて市街撒水は細菌驅除の目

的を達するものにあらず却て之れが繁殖を助くるものと斷定せりといふ、

●富者に子少き一因

米國紐育の醫師ホワイド氏が五十年間の經驗なりとして近頃發表したる所に據れば富豪の家に子少く貧家に子多き原因は富豪の家に用ふる食料及び飲料にサリチール酸曹達を含有すること多く此サリチール酸曹達の効用を受けて測らず此結果を受くるにありと云へり葡萄酒、シヤムパンは固より罐詰食料には皆腐敗を防ぐ爲め此藥劑を用ひあり其他諸種の醫藥にも此藥劑の混和されあること多ければ富者が貧者に比し體内に此藥劑を取ることの多きは最も見易き所にして之が爲め生殖機能に影響を受くるは單に婦人の身のみならず男子も亦之が結果を受くるものなりとなり今紐育の金滿家町と貧民町とに於ける小兒の多少を比較したる實例を見るに貧民五十戸に小兒三百三十八人、富者四十五戸に小兒僅に十八人に過ぎずと云ふ

●軍隊の夏季衛生

大阪に於ける各兵營にて本月一日より例年の通り食品に付當分左の如く心得べき旨夫々へ諭達せられたりと

禁食品

生水（氷も同じ）生物（さしみ、胡瓜もみの類）えび、かに、貝類、いわし、たこ、生節、すの物、卵燒（料外製品）きんぴら、たちの魚

注意食品

さば、あげ物、あん類、豆腐、こんにやく、蒲鉾、いか、ラムネ、一夜漬

●米國大統領夫人の療治と溶鹽注射

鹽の醫治上其他効用著るしきことは人のよく知る處なるが近頃桑港に於て一時容態危篤に陷りし米國大統領マツキンレー氏夫人の療治にも鹽を用ひて危急を救ひたる由今近着の米國新聞に據りて其大要を記

さんに第一回の杯は玻璃製にして杯の底部は次第に細くして最後を活嘴にて止め置き之に長き護謨管を接續し又護謨管の末端には玻璃製にて釣針狀を爲したる細管を付し前記活嘴の仕懸にて杯中の溶鹽は護謨及玻璃の管中を通過して釣針狀の管口より出づる樣にし斯くて之を患者の靜脈の側に据ゑ次に二コアルト（我一升二合五勺弱）の清水を適當の器に入れ百十二度の温度まで之を熱し然る後普通の食鹽二茶匙を之に投じて掻き混ぜ此溶解鹽を例の杯に移し尚ほ其溶鹽の温度は約百五度に維持し置くべき裝置を爲し斯の如くにして器械及溶鹽の準備全く整ふと同時に手術を施すべき患者の腕の一部に局部麻痺を行ひて血管を切開し之に向つて前述の釣針狀細管を突入れて活嘴を開き杯中の溶鹽をして全く血管中に流入せしめたり然るに溶鹽注射の効能は驚く許りにてマッキンレー夫人は見る〳〵危篤の容態を一變し爾後其回復甚だ速なりし由にて當時擔任醫師の談にも若し此注射法にして三十分間遲延したらんには同夫人は終に全く死去するを免れざりしならんと云へり以て其効能の非常なりしを察するに足る可しと云々と時事新報に見へたり

●馬鈴薯疫病豫防の訓令

神奈川縣に於ける馬鈴薯の疫病は益々蔓延の摸樣あるより周布同縣知事は去十九日右豫防に關し左の訓令を發布せり

馬鈴薯疫病は馬鈴薯、病中最も懼るへき迅速の傳染性を有し其被害の激甚なるは全國を害し延て一地方若くは一國内擧て塊莖を腐敗し更に收穫なからしめたるは海外各國に其例鮮とせず本邦に於ては曾て該病菌の發見せざりしが昨年夏季偶々北海道に發し而て秋田、青森、茨城、長野の諸縣に散發して劇甚なる損害を與へたり今や東京府、千葉縣下の如きは被害甚しき慘狀を呈し本縣下に於ても既に久良岐町其他の地方に發せり此際是れが豫防方法を施さゞる時は其被害測るべからず依て別紙（略す）該病徴及豫防法により之を斟酌して速に該病菌の驅除豫防法を勵行すべし

●不景氣と精神病者

氣候と病者との感應顯著なるは言ふ迄もなきとなるが經濟界の消長も亦精神病者に少からざる影響を與ふるものと見へ在田端東京腦病院の調査に依れば本年一月より六月に至る半ヶ年間の入院者總計三百二十二人中死亡者八、未治者百、全治退院者百四十二人にして患者百に對し五七の割合なりと而して其病原に就て觀察すれば遺傳性多きは勿論なるが近因としては生計困難、近親の凶事、家内不和合、處世の苦心、損失落膽、酒類濫用、梅毒等の順に序算せられ近來財産上に基因せる患者頓に增加しつゝありとの事なり

●好笑は健康の證

倫敦の醫學雜誌に揭載する處を見るに好く笑ふ人は常に健康なり頗る好く笑ふ人は極めて健全なる人なり氣取る人は笑ふべきことを堪へて微笑に止むるもの少なからずこは頗る健康に害あることとなり世の進むに從ひて品格を造る爲に色々の體裁を裝ふものあれども笑の爲めには決して時を惜むべからず可笑しきときには笑を制することなく轉るまで笑ふべし笑は眞に百藥の長なりと

●衛生上危險なる天候

昨今の天候は衛生上實に危險なる時季にして濕りたる大氣一個所に停滯して霖雨數日に及び陰鬱の天氣を鬱積する地温とは恐るべき諸種の病菌を發生し易く赤痢もポツ〳〵發生し傳染病は追々其勢ひを逞ふせんとす此際寢冷へせぬ樣になし腹部は「フランネル」の腰卷または腹掛をなし用心せらるべし

●府下傳染病の現狀

警視廳に於ける最近の取調に據れば管内八種傳染病の概數は虎列拉一名、赤痢市部八十二名郡部四百五十名、腸窒扶斯市部四百二名郡部九十六名、天然痘市部二十三名郡部二名、猩紅熱市部十九名郡部十一

名、質布埵里亞市部六百十三名郡部四百三十一名等なるが昨今氣候劇變の爲め腸窒扶斯、赤痢等は益々續發の傾向ある由注意すべき事にこそ

●赤痢と腸窒扶斯

警視廳の調査によれば本年一月初發以來管内に於ける赤痢患者の概數は市部五十七人郡部二十五人にして腸窒扶斯患者は昨年の當時に比して大に增加し市部に於ける本年初發以來の累計三百九十三人郡部九十三人にして昨今氣候の不順につれ益々猖獗の模樣あるよし

●醫術開業試驗志願者

醫術開業試驗志願書受理は去る六月卅日を以て締切りなりしが本期東京府に願書を差出せしものは實地二百六十八人(内女二人)後期九百八十七人(内女十一人)前期千四百五十三人(内女二十九人)醫科百四十五人(内女一人)合計二千八百五十三人春期三千九十三人に對し二百三十九人減少せり

●急性病死者取調と健康調査

ペスト菌發見以後去る十一日より同廿一日迄十日間に於ける急性病死者にして警視廳より檢疫醫の出張檢視せし者市内にて八十一人品川署外郡部にて廿三人ありと又同期間に於て各方面の貧民部落及び勞働者等其他必要と認むる者に就き健康調査を行ひしもの市内は三万五千六百五十戸人員十四万三千五百廿七人郡部は一万一千六百三十一戸人員四万九千三百四十六人水上署管内は船舶四百八十艘乘組人員一千三百三十三人なりしと

●開業醫の被服制限

目下市郡の開業醫にして肺病等の傳染性患者に接し其まゝ他の患者を診察すること一般の例にして毫も自分の被服を消毒せざるは勿論偶々消毒衣を着用する向きもあれど傳染性患者に接する度毎に消毒をな

すにもあらず僅に手を洗ふ位に止め置くを以て却て開業醫にして傳染病の媒介をなす傾きあり甚だ不都合の次第なりとて其筋にては此等被服消毒方法の取締方に就き目下詮議中なり、

●飲食物覆蓋に關する廳令

警視廳にては店頭に在る飲食物に覆蓋を爲すべきの訓告を發し數年來其行否を視察して常に懇篤に說諭を加へて其實行を期せしも何分充分行はれざる勝なれば本年も既に夏期に及びしを以て此際廳令を發して罰則を附せんとて目下取調中なりと云ふ、

●第二回懸賞實施

ペスト病豫防としての第二回鼠買上幷に懸賞方法は此頃開會の衞生常設委員會及び市參事會に於て可決したれば松田市長は一兩日中に之が實施期日幷に方法等を告示する筈なるが今回は五十圓(八本)二十圓(八本)十圓(八本(五圓、(四十八本)一圓(四百本)の數種なりと云ふ、

●全國各種傳染病の概況

衞生局の最近統計に據れば全國各府縣に於ける本年初發以來の赤痢患者概數は去る五月末日迄に一千七百九十一人、死亡百四十三人、腸窒扶私四千八百十六人死亡千二百三十四人、實布垤利亞一万七千三百八十七人、死亡二千四百九十四人、ペスト二人死亡二人、虎列剌一人、死亡一人、痘瘡四十二人發疹窒扶私八人、死亡二人、猩紅熱二十一人、死亡一人等にして就中實布垤利亞、腸窒扶私患者多く昨今氣候の劇變に乘じ昨年大に猖獗を極めたる京都、神奈川、新潟、群馬、靜岡、長野、福島、高知、熊本、宮崎、鹿兒島、沖繩等各縣下にも赤痢患者續々發生の傾向あるを以て此際其豫防法を勵行し當局者は病毒撲滅に勉むることあるも若し一般人民が新患者を隱蔽し其病毒を傳播せしむる時は來る八九月の頃に至らば全國を通じ少くとも該患者は一万人以上に達するやも圖りがたきより一般に該病毒撲滅に注意せられたき者なりと當局者は語れり、

●島部の傳染病患者

本年一月一日より本月二日に至る府下小笠原島及び八丈島に於ける傳染病患者は腸窒扶斯十五人實布的利亞二人合計十七人なりと、

●ペスト四千人

臺灣に於ける本年一月より本月六日迄のペスト患者は四千六十七人死亡三千百十二人

帝國大學附屬第一醫院（前號の續）

◉施療患者入院心得書

第一條　本院に於て施療患者とすべき者は貧困にして其病症學術研究上須要と認むる者に限り施療入院を許す

第二條　入院中の藥餌其他治療上必要の諸費は總て本院に於て辨給し在院中は本院より貸與する衣服を着用せしむ

第三條　施療入院患者は學術講習の用に供す

第四條　施療入院患者と雖ども治療に於ては私費入院患者と差別あることなし

第五條　在院中万一不幸にして死去するときは學術研究の爲め患部剖檢に付し祭祀料として金參圓を患者の遺族若くは身元保證人に交付す

第六條　病死體剖檢後は身元保證人に於て引取るべし但し身元保證人の情願に依りては本院の費用を以て埋葬し且つ祭祀料金參圓を給す

第七條　在院日數は當該醫員の見込に由て之を定む

第八條　施療入院の許可を受けたるときは左の入院證及剖檢願書を事務室に差出すべし

施療入院證

證券印紙
貼用場所

族　籍
宿　所
職　業
施療患者　何　誰
生　年　月

私儀（又は右の者）今般施療入院相願候上は在院患者心得書を遵守致すべきは勿論其身上に係る事件は總て身元保證人に於て引受可申候若し貴院の規則を遵守せざるに由りて退院を命せらるゝか又は醫員の許可を得ずして退院をなしたる場合に於ては其在院日數に應ずる私費患者の三等入院料を退院當日より日數五日以内に身元保證人より相納可申候也

追て轉居等の節は直に御屆可仕又旅行等の節は代人相立御認可を經べく候也

宿所
右（又は願人）　何　誰印

年　月　日

宿所
患者身元保證人　何　誰印

醫科大學附屬醫院御中

（注意）○證券印紙（壹錢）を貼用して消印をなすべし○願人は患者本人たるべし但し精神錯亂人並不省又は丁年未滿なるときは他人たるべし○保證人は丁年以上の親屬等にして東京市内に住する戸主たるべし

剖檢願書

證書印紙
貼用場所

族　籍
宿　所
施療患者　何　誰
生　年　月

私儀（又は右之者）今般施療入院相願候處萬一不幸にして死去致候節は學術研究の爲め患部剖檢相成度（本人の志

願に付）謹て此段相願候也

宿所
右（又は願人）　何　誰印

年　月　日

宿所
患者身元保證人　何　誰印

醫科大學附屬醫院御中

（注意）○證券印紙（壹錢）を貼用して消印をなすべし○願人は患者本人たるべし但精神錯亂人事不省又は丁年未滿なるときは丁年以上の親屬たるべし○保證人は丁年以上の親屬等にして東京市内に住する戸主たるべし

第九條　許可を得て入院したる上は患者若くは親戚等の都合に由りて猥りに退院するを許さず

第十條　前條々服膺の上入院したるときは本院諸規則幷に在院患者心得書を遵守すへし

●横井玉子氏の改良服

氏の新たに工夫せられたる改良服は尤も西洋服に近き折衷の服裝にて恰好もよく且輕便にて反物は一反にて出來得る者なり今回は是非掲載の筈なりしが實地同氏に委しく聞きもし見もして後と思ひ居したため發行日も迫り繪圖彫刻も間に合はざるは遺憾なり詳細は尙次號を待たれよ、

●鳩山夫人送別會

鳩山博士には今回米國エール大學の創立二百年紀念祭に招聘せられ同夫人にも同航せらるゝにより大日本婦人衞生會、大日本婦人教育會、愛國婦人會、婦人質問會の各團体發起となり去十四日第二日曜日午後四時より、上野精養軒に於て鳩山夫人及鳩山博士をも招待して送別の宴を開きたり、同日は折惡しく雨天なりしが參會せらるゝもの引もきらず、兩氏の出席せらるゝや豫て設けの席に導き、夫れより樓上の廣間へと案內せられたり、主人席には鍋島侯爵夫人、客席には相對して鳩山夫人着席せられ、續いて一同着席、宴中場にて鍋島侯爵夫人には今回鳩山御夫婦の洋行せらるゝに付各團体有志の者集り聊か御送別の意を表せんが爲め今日の宴會を設けたる次

第にて御夫人には是迄種々の會へ御骨折下されしとを一言御禮申猶御歸朝の後も一層御盡力あらん事を祈るとの主趣を述べられ續いて鳩山夫人の挨拶あり「此度私共の洋行するに就きましては、今日此盛大なる送別會を御開き下さいまして何共御禮の申し様はありません、此御厚志には何を以て之を酬ひましやうか、迚も私は日本の未だ知れさる事情を充分外國に紹介することは覺束ないと思ひますが、今日の宴會は私の爲めに大に刺戟と相成りました勉めて言語を愼み諸氏の御厚誼に報んことを期すとの意味にて謝辭を述べられ宴終るや一同別室に於て快談數刻七時頃散會せしが此會の爲め委員として盡力せられしは本會の濱尾作子、高木かう子、婦人敎育會下田歌子、山脇房子、愛國婦人會松平久子、相馬陸子諸氏にして男子には濱尾新君、穗積陳重君、佐藤進君、宮本仲君外三四名來會せられたり高木豊三君にも出席せらるゝ筈なりしが俄かに差支の爲め出席せられざりき當日の出席者は五十三名にしていと盛んなる送別會なりき、

因に記す鳩山夫人出發の期は九月四日にて尚月餘の日子あれども八月は避暑旅行等にて不在の方も多かるべしとて斯くは早く開くに至りたるなり、

出席者（出席順）

侯爵夫人鍋島　榮子	公爵夫人近衞　貞子	三輪田まさ子
子爵夫人松平　久子	高木かう子	山脇　房子
羽田三緒子	相馬　隆子	高橋　孝子
濱尾　作子	佐方　鎭子	穗積　歌子
子爵夫人田中八代子	後閑菊野子	中濱　芳子
岡田　稔子	岡部すが子	中山　幸子
原　禮子	下田　歌子	岡山さし子
潮田千勢子	門野しゆん子	ミスプリンス
メリープリンス	三宅ふし子	三浦　教子
飯島つる子	武村千佐子	岩下　菜子
山本多積子	吉武輝枝子	馬渡たま子
子爵夫人松前　藤子	内田　菜子	丹波　貞子
廣瀬たけ子	佐藤　靜子	菊池たつ子
津田　梅子	瓜生　繁子	棚橋　絢子
栗塚　龍子		



大日本婦人衞生會記事

●本會例會

七月例會　七月六日午後一時より麹町區虎の門内東京女學館講堂に開く席定まるやドクトル朝倉文三君には浴に就てと云へる演題にて浴の種類性質効用より温浴海浴の適否等を演述せられ續いて醫學士林春雄君には精神の衞生と云へる演題にて精神の感動は吾人の身體に至大の關係を有するものなれば平素精神をして安靜に保ち喜怒愛樂は過すべからず云々と詳述せられ右終りて散會せしが當日役員には濱尾副會長、鳩山、高木、松平芳子、岡田、羽田、吉武、三浦、松前子爵夫人、石川、濱田の諸氏出席せられしが當日は雨天の爲め會員の出席者至て少く女學館生徒を併せて聽講者百五十名なりき、

●新潟支會報告

孤貧兒院の爲めに慈善市を開く新潟支會にては同縣中魚沼郡十日町機業家中篤志者數人の依托を受け六月二十三四日の兩日間新潟市西堀通長善寺に於て十日町產出の織物を販賣し利益金五拾餘圓及入場人喜捨金拾數圓役員有志金拾圓會の寄附金五圓を十日町孤貧兒院に寄贈せり因に記す同院は十日町智泉寺住職西鄉孝道氏が十數年前より獨力經營する所にして現に十人の孤貧兒を收容すと亦稀れなる篤志と云ふべし、

●山形支會報告

同支會の例會は以後每月第二土曜日に開くことゝなし山形市なる偕行社を會場となせしといふ六月の例會には北島醫學士腸窒扶斯に就き中原醫學士には家庭衞生に就きて講話せられ左の人々來會せりとい

ふ、

沖野　りう子	國井よし枝子	畔柳　きぬ子	小野　まさ子
相島　さだ子	丹　とみ子	阿部　かね子	鈴木　うめ子
荒木みどり子	中原　きゑ子	關根　たか子	西野　きぬ子
安村　かつ子	杉江　まつ子	渥美　つま子	石川　とも子
北島　もと子			

外に傍聽者四五人なりしといふ

幹事國井よし枝子辭任の爲め當分補缺せざる筈なりしが西郷きぬ子其後任として幹事承諾せられたりといふ、

右幹事中原きゑ子より報告せられたり

會報

八月及九月は本會規則通り本會の講筵を休會す但雜誌は毎月無休刊

●宇都宮支會報告

去る六月二日第五回開會淺田、渡、中里、吉永、青柳諸講師の講話あり出席者五十二名猶本月七日に第六回を開會せしといふ

同支會々員は服裝何れも質素を旨とし假りにも奢侈に流るゝことなく同地の評判もいとよろしく役員一同も滿足せりといふ

因に記す同支會は未だ創設の日淺きを以て會計庶務共今日迄悉皆淺田學士の手を煩はし居るが氏は同市院長の事とて極めて多忙餘閑なきに拘はらず不相變盡力せられ御氣の毒とや申すへき今や追々緒に就き事務等は幹事分擔すべしといふ、



●本會入者會

○甲府　長田伊佐君紹介

●甲府市紅梅町五十二番地　通常會員　山木よね子

●仝市富士川產婆看護婦養成所　通常會員　村松つねじ子
●仝市相生町上のや號　通常會員　市川うめ子
●仝市代官町山本幸次方　通常會員　山本萩子
●仝市三日町一ノ十七、雨宮勘次郎方　通常會員　石丸小菊子
●仝市細工町三丁目　通常會員　田澤やす子
●仝市仝町二番戶　通常會員　根津るい子
●仝市紅梅町三齋木方　通常會員　淺塲らく子
●仝市魚町二丁目保坂正方　通常會員　廣瀬ます子
●仝市三日町二ノ八十二、石原方　通常會員　赤尾千雄子
●山梨縣八代郡黑駒村　通常會員　堀内その子
●甲府市八日町一丁目小池次作方　通常會員　天野貞子
●山梨縣西山梨郡山城村　通常會員　深澤ともじ子
●甲府市太田町倉田二百十二藤澤方　通常會員　岩間しげよ子
●甲府市相生町　通常會員　田邊いち子
●仝市百石町駒井六一郎方　通常會員　大久保ませの子
●仝市愛宕町小林方　通常會員　小林いね子
●山梨縣中巨摩郡松島村　通常會員　永田しな子
●仝縣仝郡龍王村本龍　通常會員　長谷川花路子
●甲府市下一條町八十八　通常會員　瀧澤その子
●山梨縣中巨摩郡龍王村　通常會員　尾崎春惠子
●仝縣東八代郡國立村字國分組　通常會員　前島こと子

●甲府市相生町拾五番地　通常會員　櫻井たか子
●仝市代官町八十番戶　通常會員　小泉うめの子
●山梨縣八代郡石和村　通常會員　吉岡富野子
●甲府市百石町四十九番戶　通常會員　古屋松惠子

○甲府　武藏秀直君紹介

●甲府市富士川衛生會產婆看護婦養成所　通常會員　永島えち子
●仝所　通常會員　飯野しげる子
●仝所　通常會員　大廷こう子
●仝所　通常會員　内田だん子
●仝所　通常會員　遠藤とよじ子
●仝所　通常會員　金剌つる子
●仝所　通常會員　川口そう子
●仝所　通常會員　大村はつ子
●仝所　通常會員　遠藤菊代子
●仝所　通常會員　加藤やす子
●仝所　通常會員　雨宮雪江子
●山梨縣立病院看護婦　通常會員　高室かめよ子
●仝縣中巨摩郡龍王村新萬歲組　通常會員　土肥しづか子
●甲府市富士川產婆看護婦養成所　通常會員　内藤たけ子
●仝所　通常會員　米山よね子
●仝所　通常會員　中村はる子

●山梨縣病院内　贊成員　武田喜之助君
●甲府市商業學校官舍　通常會員　村松さく子
○甲府　武田清四郎君紹介
●山梨縣北巨摩郡日ノ春村尋常小學校内　贊成員　輿水政一君
●甲府市竪近習町　通常會員　小野崎きよ子
●山梨縣都留郡谷村町字下町　通常會員　石井わさ子
●仝所　通常會員　加藤とも子
○甲府　津金胤利君紹介
●山梨縣北巨摩郡増富村第五十九番戶　贊成員　赤坂義三君
●仝縣仝郡多麻村第六番地　通常會員　大石とき子
●仝縣仝郡安都玉村第十五番戶　贊成員　植松俊義君
●仝縣仝郡仝村第百四十九番戶　通常會員　小清水とみ子
○甲府市　増田ちほ子紹介
●甲府市櫻町三丁目　通常會員　平林たみ子
●仝市泉町　通常會員　佐野わき子
○山梨　進藤妙子紹介
●山梨縣北巨摩郡中田村　通常會員　樋　梅子
●仝縣仝郡小笠原村　通常會員　小泉ゆく子
○贊成員　小澤卯之助君紹介
●牛込區納戶町六番地　通常會員　久保田登志子
●牛込區拂方町十六番地　通常會員　中川なつ子

●牛込區揚場町六番地　通常會員　勝田てふ子
●牛込區拂方町三十番地　通常會員　永田光子
●牛込區早稻田町五十八番地　通常會員　福島さく子
○副會長　濱尾作子紹介
●神田區鈴木町二番地東洋内科醫院内　通常會員　河野もゝの子
○役員　丹波貞子紹介
●牛込區拂方町十一番地　通常會員　山田拾子
○山口　兒山すみ子紹介
●山口縣佐波郡三田尻毛利家邸内　通常會員　長井貞子
●仝所　通常會員　莊原まさ子
●仝所　通常會員　和田まつ子
○臺灣　松仕臨太郎君紹介
●臺灣臺北城内東門街内第二號官舍九號　通常會員　古谷はる子
○仝　山村ませ子紹介
●臺灣臺北東門街土地調査局官舍はノ二號　通常會員　岡田はつ子
○事務所申込
●千葉縣安房郡岩井村竹内　通常會員　川崎ゆき子
●熊本縣飽託郡春日村字方目五百二十　通常會員　柴田ちよ子
●臺灣臺南鳳山醫院官舍　通常會員　鵜飼芳子
●帝國大學第二醫院内科看護長　通常會員　高野京子
●牛込區矢來町一番地　通常會員　那古屋すゞ子

●本郷區春木町三丁目三十七、二宮縣市方　通常會員　渡邊はく子
●甲州谷村町下町　通常會員　石井いせ子
○淺草區　浦田春子紹介
●淺草區須賀町一、明治病院内　通常會員　平川とき子
○麹町　加藤常子紹介
●麹町區元園町一ノ六　通常會員　戸塚てつ子
○芝　篠原さだ子紹介
●麻布區東町二十八番地　通常會員　水江小枝子
○媛媛　矢能以満子紹介
●愛媛縣松山市南堀端町　通常會員　佐伯みつ子
○宇治
●伊勢國度會郡宇治山田町大字岩淵町　通常會員　本間とよ子
○山口　溝禮駒衞子紹介
●山口縣下吉敷郡吉敷村　通常會員　吉田すま子
○京橋　石崎ひさ子紹介
●京橋區南八町堀一丁目十五番地　通常會員　中村みね子
○府下中野村　寺本谷子紹介
●府下豐多摩郡中野村五百七十四　通常會員　三平とみ子
○日本橋　浦杉糸子紹介
●日本橋區藥研堀町三十一番地通常會員　山本いよ子
○森吉六君紹分

●牛込區辨天町百五十番地　通常會員　土肥眞子
○京橋　吉田賢子紹介
●京橋區弓町十番地　通常會員　杉田なつ子
○下谷　根岸かな子紹介
●下谷區茅町根岸方　通常會員　原田まさ子
●仝所　通常會員　石久保美伊子
○本郷　小山はな子紹介
●淺草區小島町五十番地　通常會員　齋藤太津子
○下谷　和田つね子紹介
●麻布區笄町七十九番地　通常會員　日下部政子
○本郷區　澁谷倭十紹介
●第一醫院内　通常會員　高橋とよ子
○本所　岡田せん紹介
●本所區緑町二ノ二十三　通常會員　池澤きく子
○本郷　松波好子紹介
山口縣山口御堀村白二十四、小林氏方　通常會員　諏訪幾代子
○高知　内藤喜千彌子紹介
●高知市北奉公人町三丁目楠永方　通常會員　安岡貞枝子
○品川　西倉志茂子紹介
●南品川馬場三百九十三　通常會員　川前惠子
○麹町　高瀬さと子紹介

●靜岡縣濱松町六十七　賛成員　鈴木市太郎君

○宇都宮　講師吉永粲九郎君紹介

●宇都宮市馬場町　通常會員　吉永こと子
●仝所　通常會員　稲葉けさ子
●仝所　通常會員　菊地しめ子
●仝中河原町　通常會員　齋藤しん子
●仝小幡町　通常會員　角田でん子
●仝新石町　通常會員　柴田つる子

○新潟幹事　加藤かう子紹介

●仝市旭町一番地　特別會員　山本すゑ子

○新潟評議員　都築すが子紹介

新潟市西大畑通　通常會員　五十嵐やす子

○臺灣　田村ませ子紹介

●臺灣臺北城內東門街乙第三號官舍八室　通常會員　市川やす子

○臺灣　松住臨太郎君紹介

●臺灣臺北東門街乙第四號官舍八室　通常會員　前田きやう子

○大阪　植村妙子紹介

●大阪市西區阿波座一番町百五十番屋敷　通常會員　久米はま子

○丹後　石栗とせ子紹介

●丹後國舞町南田邊三十九番地　通常會員　田口初子

○事務所申込

●神田區駿河臺袋町十三濱田病院內　通常會員　尾花よし子

○甲府　武田清四郎君紹介

●甲府北巨摩郡日の春村尋常小學校　賛成員　輿水政一君
●甲府市遠光寺佐久清三郎氏方　通常會員　佐久きく子

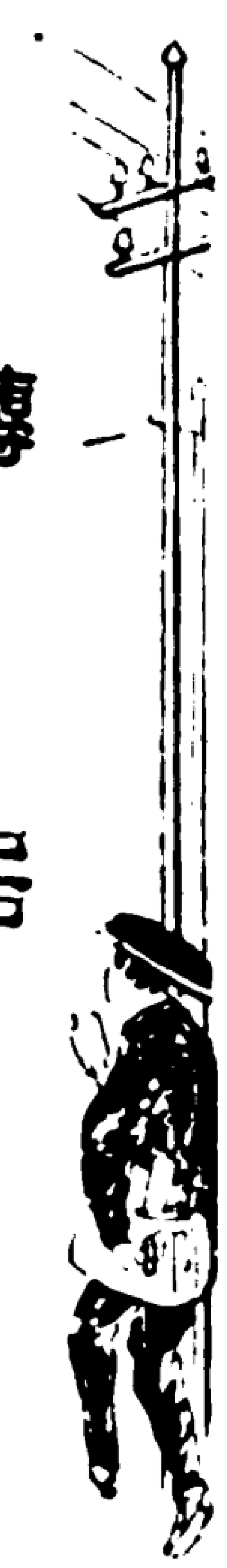
○甲府　長田伊佐君紹介

●甲府警察署官舍　通常會員　高森つる子
●甲府市百石町　通常會員　藤崎かね子

（未完）

●會員種類變更

特別會員　舊通常會員　品川英子



轉居

會員諸氏御轉居の際は乍御手數事務所宛必ず御一報相願候

●三重縣三重郡羽津山ドクトル森病院內へ　山田くま子
●芝區佐久間町二ノ十五へ　矢野ふみ子
●麻布區日本赤十字社病院內へ　桂ゆき子
●麻布區笄町七番地へ　森園子
●三重縣津市私立病院內へ　山田雛子
●長野市立病院內へ　桑名まき子
●芝區巴町二十二番地へ　櫻井和香子

●本郷區湯島新花町九十三山田方へ	山家てつ子
●山梨縣西山梨郡里垣村東光寺坂田方へ	眞田みき子
●甲府市横近習町へ	小林彦太郎君
●全所へ	小林しげ子
●仝所へ	小林卓君
●芝區芝公園第九號四番へ	酒井國子
●臺灣中壢郵便電信局へ	赤尾ひさ子
●大阪北區曾根崎へ	玉木とよ子
●本郷區湯島切通坂町九	牧野ふみ子
●茨城縣西茨城郡友部停車場前へ	新井和歌子
●神田區鍛冶町一ノ六へ	柳川こま子
●高崎市下並榎村三百九十三へ	星野きよ子
●麴町區飯田町六ノ廿六仁壽醫院内へ	奈良かな子
●麴町區中六番町三十八へ	宇敷かつ子
●美濃國安八郡四結村藤井伊三郎方へ	河村はつ子
●甲府市富士川町産婆看護婦養成所	尾崎はるへ子
●深川區島田町九番地へ	鹿島糸子
●牛込區矢來町三番地中ノ丸甲九十三へ	作よし子
●麴町區富士見町一ノ二十五へ	加茂東美子
●麴町區富士見町六ノ十一	清洲とみ子
●麴町區永田町十九、文部大臣官舍へ	菊池たつ子
●對州竹敷要港官舍内一號へ	築山孝子
●宮崎縣南那珂郡飫肥町四山寺二百一へ	齋藤さを子
●牛込區市谷加賀町二ノ五へ	上野延子
●甲府市百石町へ	川上きん子
●近江國大津市東浦白三十二へ	須藤貞子
●長崎市爐粕町二十一へ	松田まつ子
●豐多摩郡澁谷村元實山北町七丁目十二番地中西方へ	島幸子
●相模國小田原幸町一丁目足柄看護婦會へ	須田ふさ子

●交換寄送雜誌（六月分）

●日本婦人　第二十號	東京帝國婦人協會
●日本赤十字　第九十九號	東京日本赤十字發行所
●日本橋衞生協會雜誌　第九十七號	日本橋區衞生會
●統計學雜誌　第百八十二號	東京統計學社
●統計集誌　第三百四十三號	東京統計協會
●中外醫報　第四十九號	東京中外醫報社
●料理新聞　第八號	大阪料理新聞社
●なんな　第六號	大日本女學會
●よろづ報知（第十三號　第十五號　第十四號）	東京扶桑通信株式會社
●體育　第九十二號	日本體育會
●大日本私立衞生雜誌　第二百十七號	大日本衞生會
●大日本婦人教育會雜誌第百三十五號	大日本婦人教育會
●團々珍聞　第千三百二十四號	東京珍聞館

- ●通俗衛生　第三十五號　大阪私立衛生會
- ●藥石新報　第三百九十三號　第三百九十四號　第三百九十五號　大阪藥石新報社
- ●藥學雜誌　第二百三十二號　東京日本藥學會
- ●婦人新報　第五十號　東京婦人矯風會
- ●婦女新聞　第五十六號　第五十七號　第五十八號　第五十九號　婦女新聞社
- ●婦人と子ども　第一卷第六號　フレーベル會
- ●婦女の友志美　第五號　廣島成美社
- ●國家醫學會雜誌　第百七十號　東京國家醫學會
- ●工業雜誌　第十四卷二百二十一號　第十四卷二百二十二號　東京工業雜誌社
- ●あけぼの　第一號　東京あけぼの會
- ●產科婦人科學雜誌　第三卷第六冊　東京日本產科婦人學會
- ●產婆學雜誌　第十八號　日本產婆學協會
- ●山陽新報　第六千六百九十三號　山陽新報社
- ●草藥新聞　第二百二十一號　第二百二十二號　草藥新聞社
- ●教育實驗界　第七卷十一號　第七卷十二號　東京育成會
- ●淑女　第三卷第六號　東京紫鸞社
- ●越佐教育雜誌　第百二號　越佐教育會雜誌社
- ●光之庭　第二號　東京以文會
- ●姫百合　第三卷第六號　東京姫百合社

●新刊寄贈書紹介

醫學博士　佐々木政吉先生演述
鈴木亥三郎編輯
冷水養生法　全　朝倉文三發行所

柄田謙藏序　南川親帆図
杉浦示子編
產婆看護婦必携　全　正價四十錢　發兌元　東京本郷龍岡町三十四　吐鳳堂書店

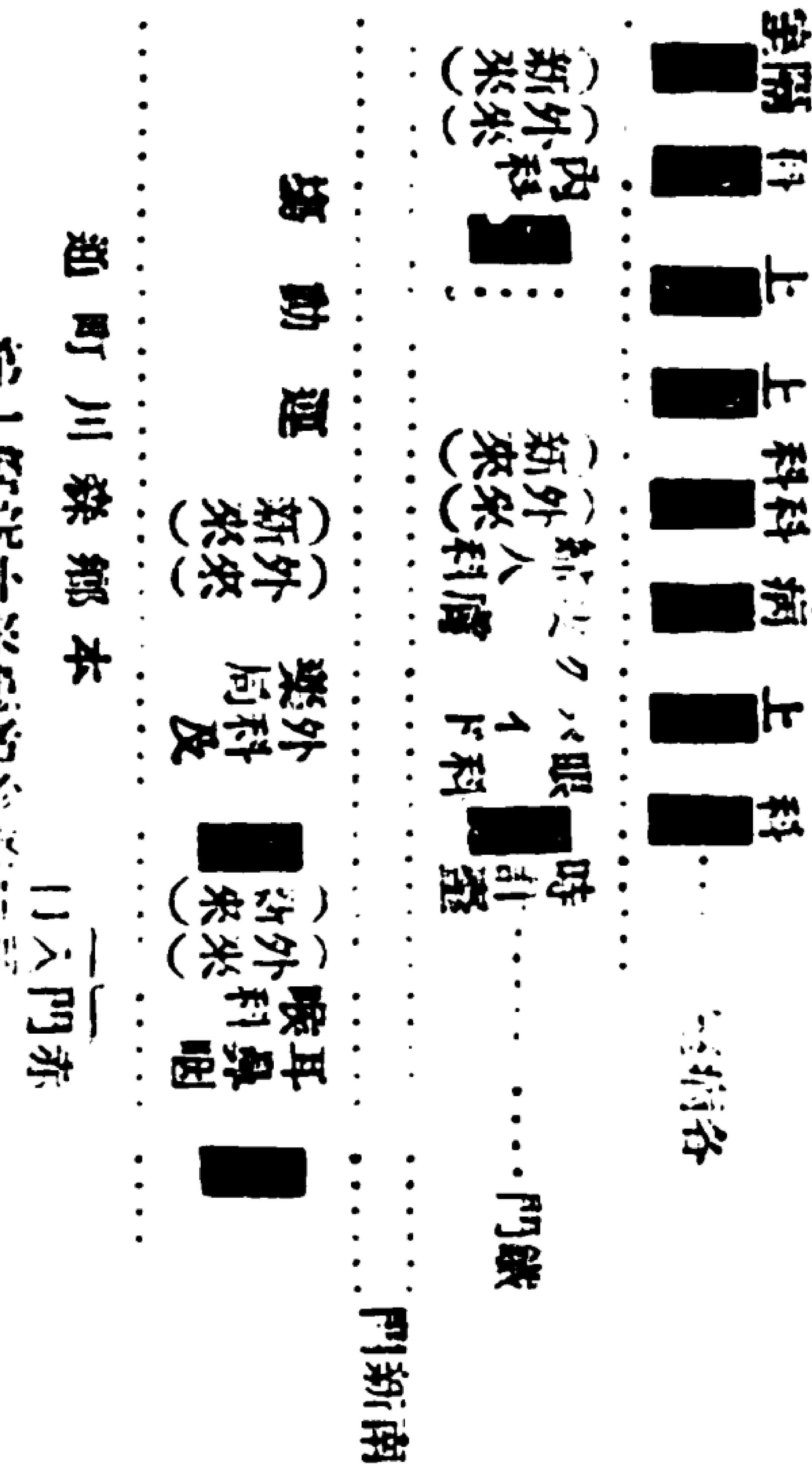
右は多年斯道に經驗ある杉浦示子の著にして產婆看護婦の知らで叶わぬ事のみ網羅せり必携の名空しからすといふべし

●御斷り　本月は雨天多の爲め口繪寫眞延引にて發行々の大ひに遲れしを謝す



東京帝國大學醫科大學附屬醫院案内

東京醫科大學附屬醫院は本郷元富士町にあり今其の便を圖り左に構内の略圖及診察時間等を掲ぐ(詳細は本誌第百三十四號に掲出せり)



第一醫院外來患者診察日割

初めて診察を受けに行くもの

內科(新來)
三浦教授　水金　午前九時より
入澤助教授　火土　仝
橋本助教授　月木　仝
再來(二度目以上診察を受けに往くもの)
助手　火木土　仝

外科(新來)
ドクトル スクリッパ　水金　午前十時より三十人
近藤教授　火木土　午前九時より二十五人
再來
助手　月水金　午前九時より

眼科(新來)
河本教授　月火水木金土　午前八時より
再來
河本教授　月火水木金土
助手　仝上

產科婦人科(新來)
木下教授　火木土　午前九時より
再來
木下教授　火木土　仝上
助手

小兒科(新來)
弘田教授　月水金　午前十時より
再來
弘田教授　火木金　午前九時より
助手

皮膚病科(新來)
土肥教授　月木金　午前九時より
再來
土肥教授　月水金　仝上
助手

耳鼻咽喉科(新來)
岡田教授　月水金　午前九時方
再來
岡田教授　火木土　仝上
助手

脚氣病科
新來再來とも
助手　火木金　仝上

但大祭祝日及急病患者は此限にあらず

病室來訪時間　(午後一時より仝五時迄)

外科及事務用　電話(本局四百四十六番)

產科婦人科小兒科　電話(本局四百四十四番)

第二醫院診察日割

第二醫院燒失後は第一醫院外科の一部に於て診療する元の如し

內科(新來)
青山教授　火木
入澤助教授　月
橋本助教授　水土
助手　金

新來
佐藤教授　火木土
助手　月水金

眼科(新來)
甲野助教授　火木土

入院料

一等　一日金參圓
二等　一日金貳圓
三等　一日金壹圓

但特別に附添看護婦を傭使するものは別に其傭使料を納めしむ

尙私費患者入院心得は本誌第百三十九號官費入院患者心得等は本誌第百四十號を一覽せらるべし

産科往診

東京市内ニ居住ノ姙婦ニシテ出産時本院ニ來リ診察ヲ受ケ難キ場合ニ於テ往診ヲ請フトキハ産科專門ノ醫員等ヲ派シテ診療セシム

但診察料及凡テ其他ノ費用ヲ要セズ

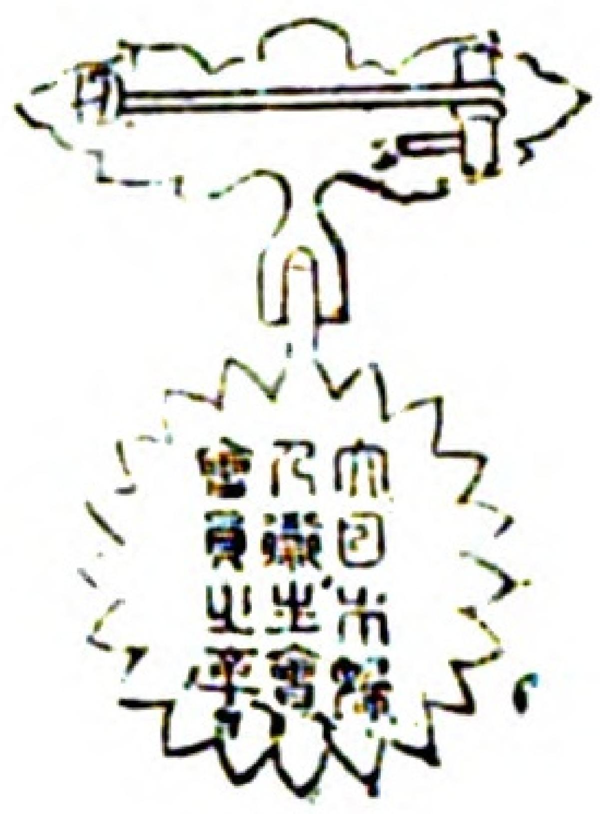
九ケ月以上ノ姙婦ニシテ入院ヲ請フモノハ診察ノ上官費又ハ私費ヲ以テ入院ヲ許ス

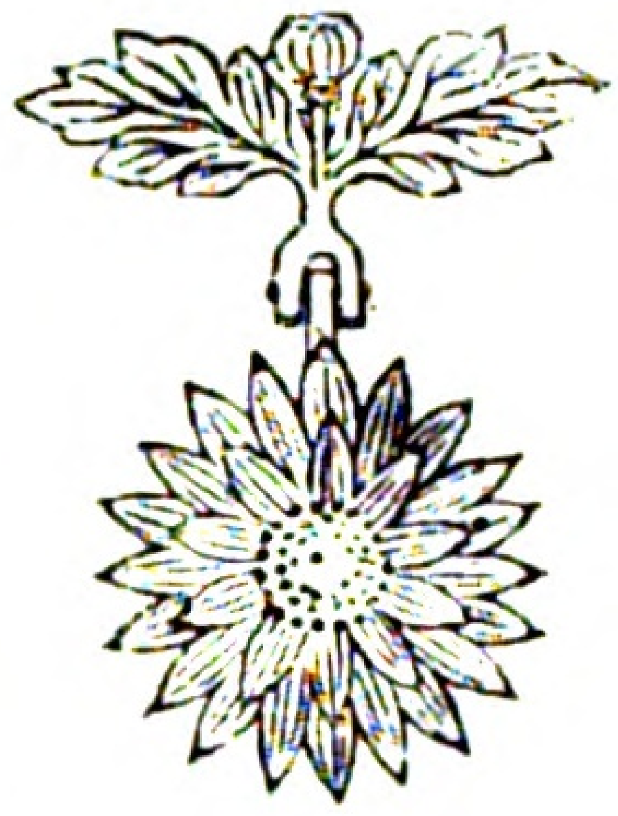
東京本郷區元富士町（電話本局四百四十四番）

東京帝國大學醫科大學附屬醫院

明治三十三年十一月

大日本婦人衛生會廣告





一本會從來の會員券は粗末なるもの故隨て遺失汚損し易きため先般來上圖の如き本會徽章を調製し御申込の諸氏へ頒つ尚御入用の御方は事務所へ御申込あれ

一本徽章は襟留兼用に製せるを以て集會の際は勿論成るべく平素御用ゐ被下度左すれば自然本會の廣く江湖に知れ渡り普及の一端と可相成候

一本徽章は通常會員章第一號銀メッキ製一個十五錢●同第二號正銀製一個五十錢●終身及び特別會員章(第三號)一個一圓外に一號及二號送費六錢三號章送費九錢

明治卅四年七月　東京市牛込區矢來町三番地

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會宇都宮支會規則

第壹條　本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス

第貳條　本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾九名幹事四名ヲ置ク

會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス

各役員ノ任期ハ一ヶ年トス

第參條　毎月壹回(第壹日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス

第四條　入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依頼スベシ

本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ屆出ツベシ

第五條　本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ

會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二ヶ月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ

第六條　本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス

第七條　講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ陪聽セシムベシ

第八條　服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス

上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ

第九條　特ニ支會規則ニ揭ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

宇都宮支會

事務所宇都宮市西塙田町淺田方

私立大日本婦人衛生會新潟支會規則

第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり

第二條　當支會の會費は左の六種とす

終身會員	一時限り出金	貳拾圓
特別會員	毎月	金參拾錢
通常會員	仝	金貳拾錢
支會員	甲毎月	金拾錢
	乙仝	金五錢

第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし

第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す

第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす

第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く
　會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す
　各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす

第七條　支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演説をなすべし

第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す

第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし

第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし
　會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし

第十一條　一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす

第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし

第十三條　特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

新潟支會

事務所新潟市旭町一番町十番戸
河上フサ子方

私立大日本婦人衛生會山形支會規則

第一條　本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す

第二條　本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く
　會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す
　役員の任期は一ヶ年とす

第三條　本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす

第四條　入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし
　本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし

第五條　本會々費は會計幹事に納むべし
　但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし

第六條　服裝は精誠質素なるを要す
　上着及羽織は絹布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

山形支會

事務所山形市檜物町川上方

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可（明治二十一年二月二十八日内務省許可）

●大日本婦人衛生會規則摘要

一 本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究せしめ衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を増進するにあり

一 會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

一 入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込むべし入會者には黄菊若くは白菊の會員章を交付す

一 會員を分ちて終身特別及通常の三種とす

一 終身會員は一時に金拾圓以上●特別會員一ヶ月金貳拾錢以上●通常會員一ヶ月金拾錢を納むるものとす●男子賛成員亦同じ

一 男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を賛成員とす其會費は本會員に同じと雖も本會に功勞あるもの又は本會に於て特に賛成員たることを望みたる者は役員協議に依り無會費とすることあるべし

一 會員は本會に於て毎月發行する雜誌を無料にて受ることを得退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より又通知すべし但既納の會費は返戻せず

一 集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會するものとす

但毎會學識經驗ある者に衛生上の講義演說談話を囑託し會員をして随意聽講せしむるものとす

一 會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を陪聽せしむることを得(勤めて衣服は質素たるべきこと)

一 講義演說等は男子の傍聽を禁す但賛成員若くは會員縁故ある男子は此限にあらずと雖も賛成員の外は本會の都合に由り臨時謝絕することあるべし

●支會

一 地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

一 本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載し申出づべし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報知すべし

一 本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす尙詳細は本會事務所へ承合すべし

御入會の注意

新入會の際は三ヶ月以上の會費と相當徽章代通常會員章(銀メッキ製拾五錢)又は(正銀五十錢)終身及特別會員は銀盃金章(金一圓)を添へ**必らず前納**にて申込まるへし然らざれば雜誌發送致し兼候但し東京府下に限り毎月會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也

追て支會々員は支會へ會費納めらるべきことゝす

一 會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局(東京牛込郵便局)宛振出あるべし又通運便何にても差支なし

一 會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に郵券三錢を添へらるべし

但止むを得ざる場合には郵券を代用するも妨げなしと云へども總て一割増とす

一 轉居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

一 會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

廣告料		
一行	十錢	總て前金
一頁	參圓	

本誌定價一部拾錢　毎月一回發行

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四
發行所　私立大日本婦人衛生會
編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎
印刷者　東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　戸上義章
印刷所　東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工塲